

CSR Report 2012

環境・社会活動レポート



株式会社 エフピコ



50年の時を経て、 福山から全国へ。

エフピコという現在の社名は、設立当初の福山パール紙工の英語表記のイニシャルに由来しています。エフピコが製造する食品トレーの原材料にはパール紙と呼ばれる、真珠のように光沢のある白い発泡スチロールが使われます。設立当時に比べるとその材質は随分と変わりましたが、現在でも同様のパール紙が使われています。

その真っ白いパール紙をキャンバスとして、まず最初にエフピコは広島県の福山市に点を描きました。それから50年が経ち、今では日本全国にエフピコの拠点が存在しています。点から線へ、そしてネットワークへと成長は続き、エフピコが製造した食品トレーや容器は全国のスーパーやコンビニ、商店街の食料品店で役立っています。

50年の間エフピコを育てていただいた社会に感謝の気持ちを込めて、企業市民としてのエフピコが行っていることをご報告いたします。

★本社

本社 (広島県福山市)
東京本社 (東京都新宿区)

●営業拠点

大阪支店 (大阪府豊中市)
札幌営業所 (北海道札幌市)
仙台営業所 (宮城県仙台市)
新潟営業所 (新潟県新潟市)
静岡営業所 (静岡県静岡市)
北陸営業所 (石川県金沢市)
名古屋営業所 (愛知県名古屋市)
広島営業所 (広島県広島市)
四国営業所 (香川県高松市)
福岡営業所 (福岡県福岡市)

●生産工場

北海道工場 (北海道石狩市)	近畿亀岡工場 (京都府亀岡市)
山形工場 (山形県寒河江市)	福山工場 (広島県福山市)
関東工場 (茨城県八千代町)	笠岡工場 (岡山県笠岡市)
関東下館工場 (茨城県筑西市)	神辺工場 (広島県福山市)
関東つくば工場 (茨城県下妻市)	四国工場 (高知県南国市)
中部工場 (岐阜県輪之内町)	九州工場 (佐賀県吉野ヶ里町)

●リサイクル工場

関東リサイクル工場 (茨城県八千代町)
中部リサイクル工場 (岐阜県輪之内町)
福山リサイクル工場 (広島県福山市)



- ★ 本社
- 営業拠点
- 生産工場
- リサイクル工場
- 選別センター
- 配送センター
- ピッキングセンター

● 選別センター

- 北海道選別センター (北海道石狩市)
- 山形選別センター (山形県寒河江市)
- 関東選別センター (茨城県八千代町)
- 東海選別センター (静岡県長泉町)
- 金沢選別センター (石川県金沢市)
- 中部選別センター (岐阜県輪之内町)
- 西宮選別センター (兵庫県西宮市)
- 福山選別センター (広島県福山市)
- 九州選別センター (佐賀県神埼市)

● 配送センター

- 北海道配送センター (北海道石狩市)
- 東北配送センター (山形県寒河江市)
- 関東ハブセンター (茨城県八千代町)
- 東京配送センター (千葉県船橋市)
- 中部配送センター (岐阜県輪之内町)
- 福山配送センター (広島県福山市)
- 九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)

● ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
- 東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
- 関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
- 西関東ピッキングセンター (東京都町田市)
- 東京ピッキングセンター (東京都江東区)
- 新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
- 中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
- 関西ピッキングセンター (兵庫県西宮市)
- 福山ピッキングセンター (広島県福山市)
- 広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
- 九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)

50周年
記念
座談会

「拝啓、小松会長！」

会長の小松がエフピコの前身である福山パール紙工を創業した時は24歳でした。当時の小松はどんな若者だったのか？どんな風にしてエフピコをここまで成長させたのか？現在、当時の小松と同年代の若手社員にそんな疑問を直接ぶつけてもらいました。「小松会長、ぜひ教えてください！」



塩見 泰教

中四国営業第2部
四国営業所
年齢：26歳
好きな言葉：「シェア拡大」



島田 司

東京営業第4部営業2課
年齢：24歳
好きな言葉：「切磋琢磨」



丹田 浩成

生産企画部ソリッド課
年齢：24歳
好きな言葉：「元気！」



長塚 幸子

ストア支援事業部
マーケティング1課
年齢：24歳
好きな言葉：「笑う門には福来る」



安佐 幸敏

リサイクル部
中日本リサイクルセンター
年齢：23歳
好きな言葉：「努力」



丹田: 会長、まず最初にお伺いしますが、起業した時はどのような大志を持っていらっしゃいましたか？

会長: 最初から食品容器の製造をしようと思って会社を始めたわけではないし、会社設立の時の夢は漠然としたものだったかもしれない。トレーを扱いはじめたのは、会社設立から3年くらい経ってからのこと。他の起業家と同じように会社を大きくしたいとは思っていた。ただ、それについては多分に運に恵まれたと感じている。運が私の大志を乗せて運んで行ってくれた。スーパーマーケットなどの大型店舗が生まれ始め、トレーを扱っていたエフピコは時代の波に乗ることができた。

島田: 私が担当するお客様は小規模なスーパーさんなのですが、その地域では人口が減少傾向でスーパー間の競争も激しくなっています。どのような営業方法が必要でしょうか？

会長: そういうところには大手が出てくるもの。そうなると安売り合戦が始まる可能性がある。しかし小規模なお店はそれに巻き込まれないように、地産地消で消費者が欲しいものを売らないとダメだ。そんなお客様の売り方に合わせた容器を提案していきなさい。お客様のニーズをよく見極めて行動することが大事じゃないのかな。

塩見: ずばり聞きたいのですが、会長流の営業の極意とは？

会長: お客様と対話をしながら、お客様と一緒に売り場づくりをする気持ちを持つことかな。決して極意というほどのことではない。基本的に私はお客様の立場に立った提案をするようにしている。怖がらずにいろいろな提案をすればいい。仮に間違った提案をしてしまったとしても、気にしないこと。お客様はちゃんと聞く耳を持っている。もうひとつは、買う権限を持っている人と



直接話をするのだ。何でもストレートに分かり易く進めること。

長塚: まだ会社が途上段階だった時、人事採用の判断基準はどのようなものでしたか？

会長: 来る者は拒まず。小さな会社なんだから、来て働いてくれるだけでありがたかった。辞めていく人間は自然と辞めていった。今のように大きくなってからは、こういう大きな組織のなかで活躍できるのはやはりスポーツマンかなと感じる。チームワークの大切さを知っている人間のほうが組織のなかで自分を活かす術を知っているのかもしれない。

島田: 会長にとってエフピコとは？

会長: わからん(笑)。会社は私の思いに追いつき、追い越して行った。会社に置いてきぼりにされるんじゃないかと心配だ(笑)。会社が大きくなるにつれてもっと大きな夢を語り、有言実行となるよう頑張ってきた。たださっきも言った通り、ずいぶん運に恵まれたと思う。

安佐: 会長の活力の源は何でしょうか？

会長: 昔と今では違うな。昔は結構派手に遊んでいた時代もあった。50歳の頃からは健康に気を付けるようになった。やっぱり体が健康でなくては元気ではいけない。今でも毎日ずいぶん歩いているし、プールに行ったり、屈伸運動なら皆のような若い者にも負けないと思う。飲んでワイワイと話をするのも活力の源かな。

丹田: 尊敬する人物はいらっしゃいますか？

会長: 尊敬するというのではないが、一代で財を成した人たちのなかには大いに敬意を払っている方もいる。それと



一倉定という経営コンサルタントの話にはずいぶんと耳を傾けた。空理空論を嫌い、徹底して現場実践主義とお客様第一主義を標榜する人で私の考え方と相通じるものがある。

塩見：最近、私の担当のお客様であるスーパーさんの経営母体が変わりました。このお客様内部でもいろいろと変化があるようなのですが、営業活動を行ううえでの注意点があるでしょうか？

会長：今までのやり方を続けていけばいいと思う。母体が変わったからといって、そのスーパーさんも今までのお客さんを逃がすようなことはしないように気を付けるだろう。もし何か徐々に変わっていったら、その変化に歩調を合わせてお客様の話によく耳を傾けること。心配するな。

長塚：売り場を視察する際、会長はどのような視点を持っていらっしゃるでしょうか？

会長：それは一言では難しいし、売り場によっても違う。私の長年の経験で感じるものでもあるしな…。重要なのは定点観測しなさい、ということ。一回や二回では何も分からない。繰り返し見続けることで見えてくるものが

必ずある。ある日、その売り場の変化や問題点が見えてくる瞬間があるものだ。

安佐：私はリサイクルセンターの現場にいるのでその方面のことが気になるのですが、今後エフピコのリサイクル活動はどのように展開していくのでしょうか？

会長：エフピコのリサイクル活動は社会のニーズに合わせたもの。われわれの意向ばかりを考えていては変な方向に行ってしまう可能性もある。社会のシステムのなかで求められているサービスを提供することを考えよう。ペットボトルのリサイクルを始めたのも「海外に流出してしまう使用済ペットボトルはどうにかならないか」という声があったから。容器製造のように先を見越した展開を目指すよりも、エフピコに求められることに応えていきたい。

全員：最後に、エフピコの若手社員にひと言お願いします。

会長：会社の成長とともに成長してってください。人として大きく成長して欲しい。それだけです。

全員：会長、今回はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました！



CONTENTS

エフピコ50周年 (P.1 ~ P.5)

プロローグ	1
50周年記念座談会：「拝啓、小松会長！」	3
目次／編集方針	6

会社概要 (P.7 ~ P.10)

企業プロフィール/主要な経営指標	7
組織およびグループ会社紹介	9
製品紹介：日本の食文化を支えている エフピコグループ製品	10

経営における取り組み (P.11 ~ P.18)

コーポレートガバナンス	11
コンプライアンスとリスク管理	13
社長が語る：「50年目のスタートライン」	15
トピックス：環境省「エコ・ファースト企業」に認定	18

環境における取り組み (P.19 ~ P.42)

環境方針/環境マネジメント体制	19
エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)の 進捗状況報告	21
製品開発における取り組み	23
工場における取り組み	25
物流における取り組み	27
販売活動における取り組み	29
オフィスにおける取り組み	30
エフピコ方式リサイクル	31
工場見学の受け入れ	40
環境負荷の全体像	41

エフピコ50周年 (P.43 ~ P.46)

50周年記念座談会：「わが人生、エフピコと共に」	43
--------------------------	----

社会における取り組み (P.47 ~ P.55)

株主とのかかわり	49
消費者とのかかわり	50
お客様とのかかわり	51
障がい者の雇用	53
社員とのかかわり	55
エフピコのおゆみ	56
編集後記	58

編集方針

この「CSR Report 2012」は、エフピコの2011年4月から2012年3月までの環境および社会活動における取り組みをまとめたもので、以下の方針に沿って編集しています。

■ エフピコらしさを皆さまにご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。

■ レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしました。

■ 対象期間：2011年4月1日～2012年3月31日

■ 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ

会社概要

簡易食品容器の製造・販売を通して社会に貢献するとは
 ということなのかをご説明します。



OUTLINE

目標を定め、そこに向かって全員がひとつになること。同時に、周りの人たちへの気遣いも忘れないこと。そんな風にバランスを取りながら、エフピコは福山から全国へとその活動の場を広げていきました。50周年を機としてこれからは、社会から認められるだけでなく、社会に多くを還元していく企業へと成長していきたいと考えています。



■ 企業プロフィール

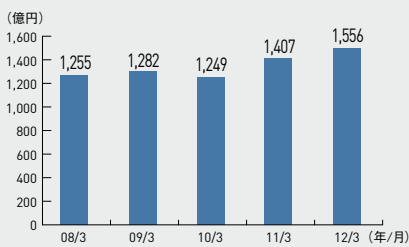
商号	株式会社エフピコ
設立	1962年(昭和37年)7月
代表者	代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO) 小松安弘 代表取締役社長兼最高執行責任者(COO) 佐藤守正
資本金	131億5,000万円
社員数	707名(エフピコグループ:3,781名)
事業内容	ポリスチレンペーパーおよびその他の 合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに 関連包装資材等の販売
本社	〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目12番15号 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 新宿オークタワー(総合受付36階) TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



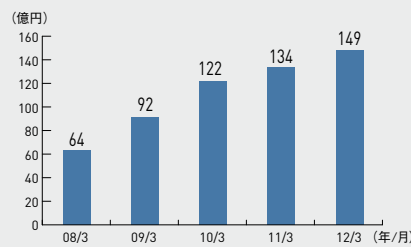
サプライチェーンマネジメントを中心にエフピコは今日も動き続けています。ぶれない軸を持つことが動き続けることのできる秘訣かもしれません。

■ 主要な経営指標

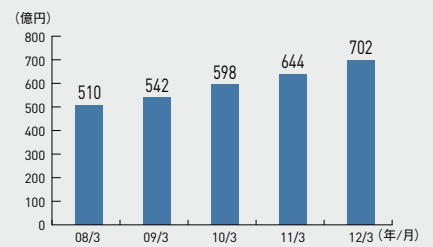
■ 売上高(連結)



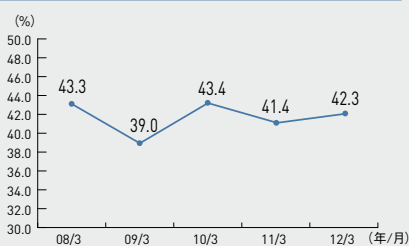
■ 経常利益(連結)



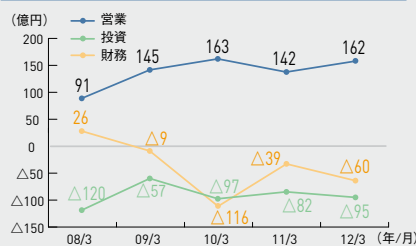
■ 純資産額(連結)



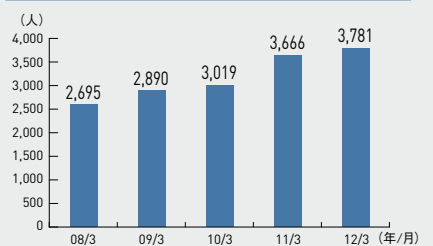
■ 自己資本比率(連結)



■ キャッシュフロー(連結)



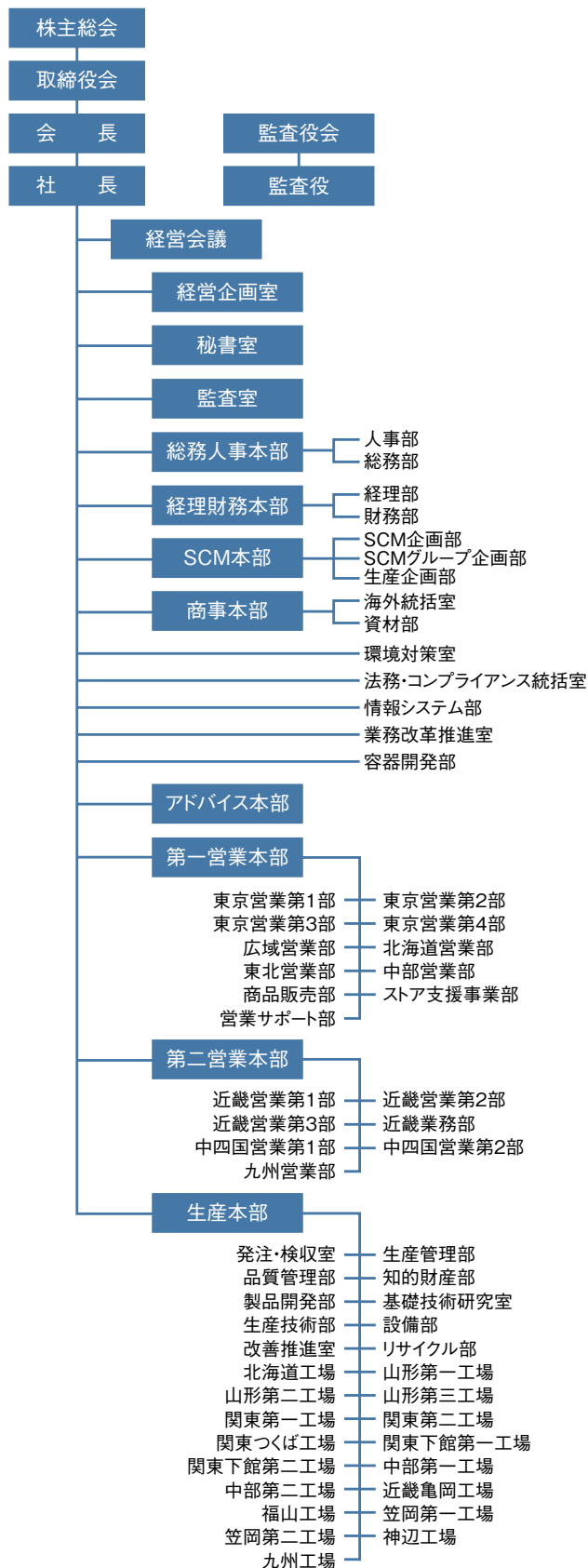
■ 従業員数(連結)



組織およびグループ会社紹介

■ 組織およびグループ会社

※2012年4月1日現在



エフピコを
サポートする
グループ会社

■ 製造

- ・株式会社エフピコ北海道
- ・株式会社エフピコ山形
- ・株式会社エフピコ下館
- ・株式会社エフピコ茨城
- ・株式会社エフピコ中部
- ・株式会社エフピコ箕島
- ・株式会社エフピコ福山
- ・株式会社エフピコ笠岡
- ・株式会社エフピコ神辺
- ・株式会社エフピコ佐賀
- ・エフピコ寒河江株式会社
- ・株式会社ダックス
- ・株式会社ダックス四国
- ・株式会社ダックス佐賀
- ・エフピコ愛バック株式会社
- ・株式会社茨城ビジョンリサイクル
- ・エフピコ日本パール株式会社
- ・株式会社アルライト
- ・エフピコチューバ株式会社
- ・ダイヤフーズ株式会社
- ・ジャパンハイバック株式会社
- ・南九州ダイヤフーズ株式会社

■ 物流

- ・エフピコ物流株式会社
- ・株式会社アイ・ロジック
- ・エフピコウエストロジ株式会社
- ・エフピコイーストロジ株式会社

■ 販売・その他

- ・エフピコ商事株式会社
- ・株式会社エフピコモダンバック
- ・インターバック株式会社
- ・テイカ精密株式会社

製品紹介:日本の食文化を支えているエフピコグループ製品

惣菜容器、弁当容器、小分け販売容器、汁物商品容器など、エフピコグループの製品は多岐にわたり、様々な食のシーンで消費者の皆さまのお役に立っています。



精肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつで、スーパーマーケットなどの売り場には不可欠な販売ツールとなっています。



鮮魚

鮮魚にも広くトレーが使用されています。付加価値を付けた切り身などには透明容器も用いられ、商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



惣菜

蓋付の惣菜容器は利便性が高く、広く活用されています。近年では個食用として少量で販売するための容器も需要が高まり、食べ残しにならないという意味でも社会のニーズにマッチしています。



弁当

さまざまな素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。



青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



寿司

一人から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。容器を傾けても中身がずれにくく、寿司の型崩れを防ぐ工夫も施しています。



オードブル

パーティーなど“ハレの日”用の食材を盛り合わせるために開発した容器です。大きさや形もさまざまで、用途によって使い分けていただけるようになっています。



菓子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。



電子レンジ対応

コンビニなどでも馴染み深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。持っても熱くない素材を使用しています。



汁物

販売店での需要を受けて開発した水漏れしにくい容器。密閉性を高くすることにより水分の多い商品に対応できる工夫がしてあります。



たまご

透明たまごパックの生産も行っています。リサイクルにも対応していますので、皆さまのご協力をお願いいたします。



スクリュューキャップ容器

食品に限らず、さまざまな小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。



紙容器

紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウトフード用の容器です。和の雰囲気演出する時など、食シーンに応じてお使いいただけます。



フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。

経営における取り組み

すべてのステークホルダーに信頼していただける企業であるための
内部体制の整備についてご説明します。



MANAGEMENT

2011年9月、エフピコ仙台営業所が仙台駅前の新築ビルに移転しました。このオフィスにはグループ会社であるエフピコチューバ、ダイヤフーズ、インターパックの3社も入居し、4社が同一フロアをシェアするという初の試みを行っています。営業所のスペースは従来の3倍に拡げて生産性を向上させるとともに、商談スペースも拡張してホスピタリティもアップしました。4社を区切る仕切りも設けず、グループ企業全スタッフによる情報交換を容易にしてシナジー効果を生み出す環境としています。

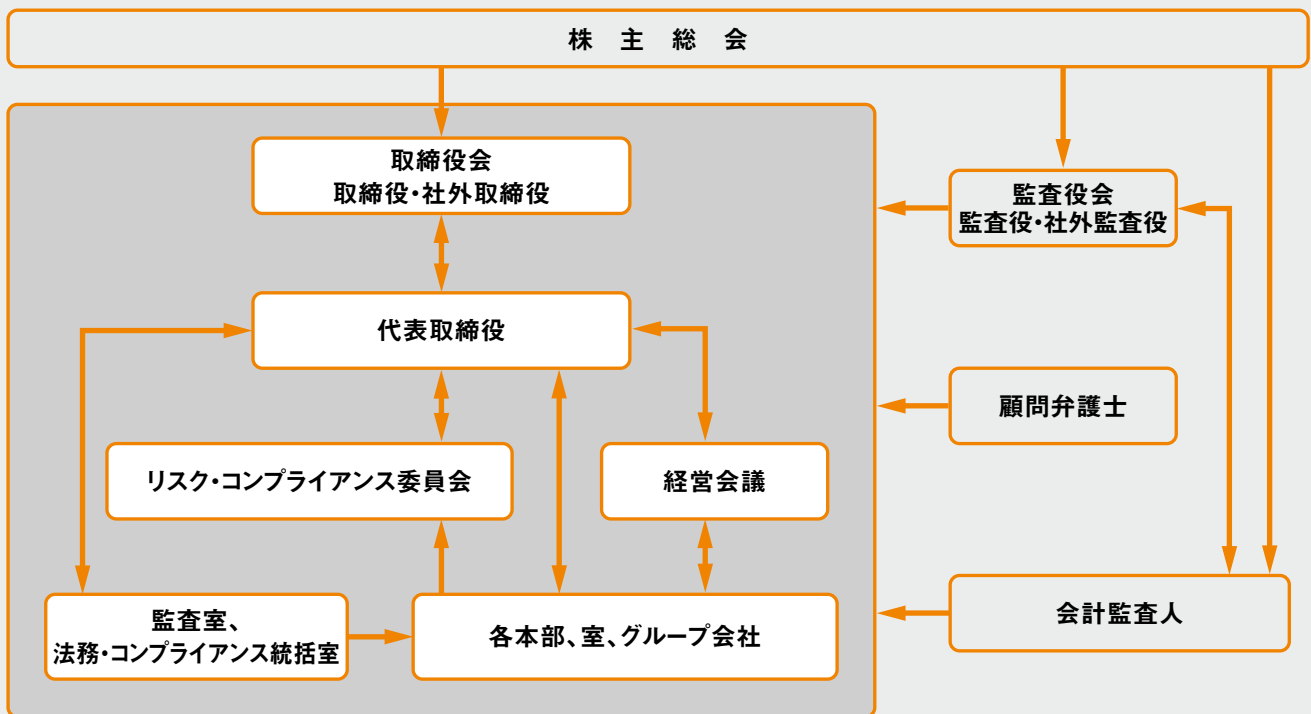


■ コーポレートガバナンス

エフピコのコーポレートガバナンスは、経営戦略に関する意思決定の迅速化と経営の効率性を高めること、透明性を確保することを基本的な考え方としています。また、当社を取り巻く株主・投資家、消費者・顧客、債権者・取引先等の利害関係者より信頼を得て、永続的に良き企業市民となるため、企業活動の情報開示を積極的に行っています。そのためのマネジメント組織としてエフピコでは「取締役会制度」「監査役会制度」を採用しています。



三方から外の光が入ってくる明るいこの会議室で、経営に関する多くの意思決定がなされました。会社の規模が大きくなればなるほど、常に公明正大であることを心がけています。



コンプライアンスとリスク管理

■ コンプライアンス

社長直轄の法務・コンプライアンス統括室が、健全な企業風土醸成のために、「エフピコ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」および「行動羅針盤」等を用いた研修を実施し、コンプライアンスの指導徹底に取り組んでいます。

行動羅針盤

あなたの行為は、法令に違反しませんか
 あなたの行為は、会社の方針にそむきませんか
 あなたの行為は、世間の常識に反しませんか
 あなたの行為は、あなたの良心に背きませんか
 あなたの行為は、エフピコブランドを傷つけていませんか

エフピコグループ

エフピコグループの社員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、責任ある言動を心がけることができるように、社員がいつでも確認できるところに「行動羅針盤」を掲示しています。



上の写真は管理職候補者認定試験の予備講習の風景ですが、この試験においても就業規則や諸規定およびビジネスコンプライアンスの理解度が試されます。上場企業の管理職として、より高い能力と知識が求められており、この試験の合格基準は大変厳しく設定されています。

エフピコ行動憲章

株式会社エフピコの役員並びに社員は、当社の経営理念に基づき、法令、協定及び社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正、透明、自由な競争を行う。
5. 株主や当社製品の利用者とは広くコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 社員の人権と個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. 役員は、本憲章の精神と自己の役割を理解し、率先垂範のうえ、社員、グループ企業並びに取引先へ周知するとともに、社内体制の整備と見直しを積極的に行う。
12. 本憲章に反するような事態が発生したときは、会社の責任において、役員・社員一体となり、問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。また、関係者の権限と責任を明確にしたうえで、厳正な処分を行う。

■ リスク管理

東日本大震災以降、自然災害に対するリスク管理の意識が全国的に高まっています。エフピコにおいても自然災害を想定したさまざまな対策が講じられています。ソフト面では災害発生時にリスク・コンプライアンス委員会委員長が設置した緊急対策本部が陣頭指揮を執って対応にあたること決められているほか、社員全員が落ち着いて行動できるよう「災害時用ハンドブック」を配布しています。ハード面においても下記のように、可能な限り被害を最小限にとどめるための対策と工夫を行っています。

また、外部からの不法な侵入を防ぐためのセキュリティ設備の充実や火災を想定した訓練など、さまざまなリスクに対応した施策を行っています。



本社社屋は万が一の水害を想定し、1階部分をエントランスと駐車場にしています。



事務所のデスク下に防災用のヘルメットを常備しています。



大型車両の出入りがある全国の大規模拠点では入退場セキュリティ管理システムを導入しています。



消防署の指導のもと消防訓練を定期的実施し、迅速な避難や初期消火ができるよう備えています。



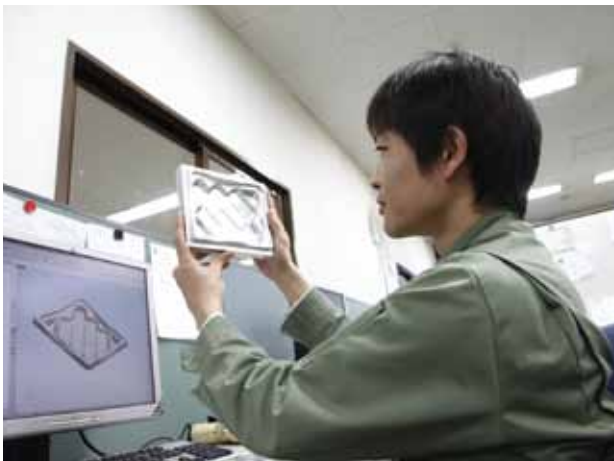
社長が語る「50年目のスタートライン」

創業から50年という時を経て、エフピコは現在どこにいるのか。そして、これからどこへ向かおうとしているのか。節目の年を迎え、社長の佐藤がエフピコの成長について語りました。簡易食品容器の製造・販売という業種の枠を出て、社会全体のなかで存在感を大きくしているエフピコの本物の姿がここにあります。

エフピコは簡易食品容器製造業界のなかでも特異な存在

この国には独自の食文化があり、日本人は食べ物に関していろいろなこだわりを持っています。食べ物の匂や新鮮さ、美味しさはもとより見た目の美しさ、そして衛生面でのこだわり。どれも大切な要素なのです。食品容器はこれらすべてを損なわないように包み込み、運べるものでなくてはならない。エフピコはそのこだわりを追い求めてきました。そしてさらには、使った後の容器についても、再資源化してもう一度使うという「もったいない精神」も追求しました。

日本の食文化を大切にしながら、食品流通に関わるさまざまな立場の方々の願いと想いを形にしようと努力した結果、他の同業者がやっていないこともやるようになったわけです。直接のお客様であるスーパーや問屋の方々だけでなく、その先にいらっしゃる消費者の皆様が求めるものも考えたトータルなモノづくりがエフピコの信条であり、それゆえにエフピコはこの業界のなかでも少し異なる存在になっているのかもしれません。



技術力、販売力、情報力が揃って初めて企業力に

さまざまな立場の方の想いを形にすることは、簡単なことではありません。スポーツの世界では「心技体」が揃って初めて立派な選手と言われますが、われわれの場合も技術力、販売力、情報力の3つを育ててきましたが、さらにもうひとつ、運ぶ力である物流力も備えました。

かつては「販売のエフピコ」と言われた時代もありました。これはつまり、「エフピコさんは販売には長けているが製造はいまひとつ…」ということだったのです。しかし今は決してそうではない。製造技術の場合ですと、耐熱性や耐寒性を高めることで電子レンジや冷凍食品にも適している容器を開発し、お客様が販売できる食品の幅を増やしました。情報力という面では、社内でのガラス張りのコミュニケーションを徹底することで部署間の情報共有を行い、結果としてお客様のニーズに対応できる創意・工夫を生み出すようになりました。そしてこの貴重な情報を展示会などを通じて他のお客様とも共有するようにしています。物流の面では、販売情報にもとづいたサプライチェーンマネジメントと自社物流のシステムを構築してきたおかげで、きめ細やかでフレキシブルなサービスを提供できるようになりました。

企業力は社会のニーズを 満たすためのもの

50年の年月を費やして企業力を高めてきたわけですが、すべては社会のニーズを満たすためのものであると考えています。少子高齢化時代の食生活に沿う容器を作ることも、スーパーの方々と一緒に売り場づくりをすることも、使用済み容器やPETボトルをリサイクルすることも、われわれに求められた仕事だと



と考えて努力をしています。求められていることを実現するために、最も合理的な方法を考えて実践する。エフピコの企業力は社会のニーズを満たすためのものであると考えます。

次の50年に向けて

短期的な展望としては、ひとつには新しい素材を使い、新しい市場に入っていくことを考えています。高齢化社会という時代の流れに沿った介護施設、病院や学校などの給食施設でエフピコの製品がお役に立つのではないかとことです。先

ほども申し上げた通り、技術力の向上により冷凍から高温まで幅広い温度帯に対応できるようになったため、用途の幅が広がったからです。エフピコのマルチFPという製品は、電子レンジで温めても容器自体は

熱くならないので、高齢の方でも安心して手で持つことができます。

中長期的には、ハードとソフトと人材のバランスの良い発展を考えています。例えば新しい技術で生産する製品のための工場の建設、お客様の利便性も考えた新たな物流システムの構築、そしてこれらを使いこなす優秀な人材の育成。バランスの良い発展のカギとなるのは、活発なコミュニケーションであると思っています。エフピコでは「ガラス張りの透明性」ということを徹底しています。何か問題があれば部署の内外を問わず、

すぐにコミュニケーションをとって皆で問題を解決していく風土が大切です。ガラス張りだから問題がすぐに見つかるし、隣の部署にも声を掛けやすい。営業が抱える問題を製造や物流のスタッフに相談するということが日常的に行われています。



社会の責任を果たせる会社

社会全体のなかで、エフピコをどのような存在の会社にしていこうということは、あまり考えていません。それよりも、簡易食品容器を製造・販売する会社としての供給責任を強く感じています。昨年の大震災の時、それを痛感しました。誰もがわれわれの容器を当たり前のもので受け入れています。容器が無いという状況を作り出すわけにはいかないのです。そして、一度お使い頂いたトレー・容器を地上資源として回収・リサイクルする循環型社会を目指したい。さらに、食生活での利便性を提供しながらその資源を循環させる一連のサイクルのなかで、障がい者の雇用も生み出し、なんとか社会に貢献していきたい。この50年で社会に育てていただいた恩返しとして、次の50年でさらなる健全な発展と社会貢献を目指していきたいと思えます。



トピックス：環境省「エコ・ファースト企業」に認定



松本元環境相と共に

■ 環境大臣とエコ・ファーストの約束

●エコ・ファースト制度とは

「エコ・ファースト制度」とは、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度です。2012年3月末時点で38社が約束し、持続可能な社会の実現を目指し活動しています。

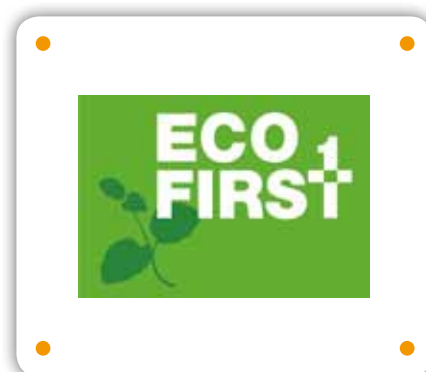
●エフピコグループのエコ・ファーストの約束

エフピコグループでは、2011年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、『エコ・ファースト企業』に認定されました。具体的約束内容としては以下を掲げ、グループ社員一丸となって持続可能な社会の実現を目指して活動しています。

- ① 容器包装の3Rによる循環型社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進
- ② 環境教育や社会貢献を積極的に推進
- ③ 環境マネジメントシステム「エコバリューチェーン」の推進

●2011年夏の節電に関するエコ・ファーストの約束

2011年3月11日の東日本大震災で起きた電力会社の事故により、関東・東北地域の発電能力が低下しました。5月18日に環境省へエコ・ファースト企業が集まり、夏のピーク時の電力使用を抑えるために、節電目標を環境大臣と約束しました。当グループでは、全国のインフラを最大活用して生産シフトを実施。また自家発電装置の稼働、オフィスでの省エネ活動を実施して、大幅な電力ピーク時の削減を達成しました。



環境における取り組み

エフピコが地球環境保全のために実践している
さまざまな取り組みをご説明します。



ENVIRONMENT

PETボトルのリサイクルプラント導入から約1年が経ちました。毎日膨大な量の再生フレークが生産されています。食品グレードを満たしたこの衛生的なフレークは、エフピコの製造する食品容器となります。今までの“トレー to トレー”という食品流通の範囲で行っていた循環型リサイクルに加え、使用済みPETボトルを扱うことで“ボトル to トレー”という社会の広範囲におよぶリサイクル活動が展開されています。



■ 環境方針

基本理念：当社は地球環境の保全が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

方針：

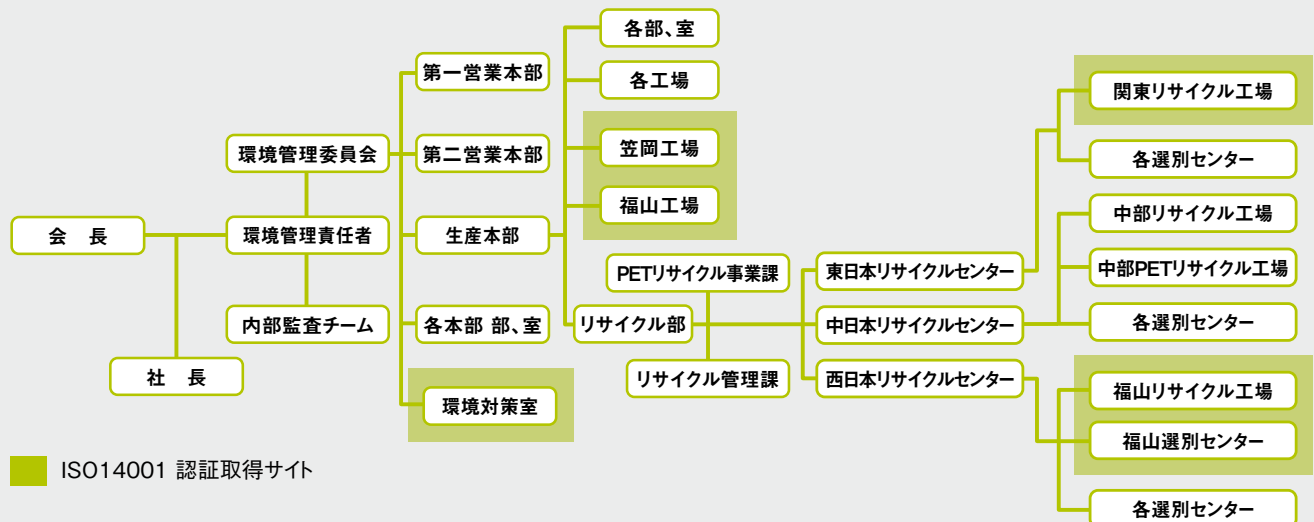
- 1 CO₂削減、天然資源の有効活用立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化につとめると共に、一般家庭から排出される使用済み容器を再生利用する『エフピコ方式』のリサイクル事業を積極的に推進する。
- 2 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び当社で同意するその他の要求事項を順守すると共に、著しい環境側面に対し自主基準を定め、汚染の予防を行う。
- 3 環境側面を考慮して環境目的及び環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査及び最高経営層による見直しを実施し、継続的改善を行う。
- 4 この方針は、環境マネジメントシステムを確立し、実行し、維持する。
- 5 この方針は、文書化し、全従業員及びエフピコ敷地内契約者にも周知徹底する。
- 6 この方針は、パンフレット、インターネットを通じ一般の人にも開示する。

中部リサイクルセンターには全国から使用済みPETボトルが集まります。その多くが今までは海外へと流出していました。これからは、再び食品容器として生まれ変わります。



■ 環境マネジメント体制

エフピコは、環境負荷低減に全社を挙げて取り組んでいます。また、その取り組みを効果的に行うとともに、継続的なものとして社内に根付かせていくために、社内の取り組みをリードする「環境管理委員会」を組織しています。環境マネジメントシステムの導入により、継続的改善に向けて全社的な活動を続けています。



ISO14001 認証取得サイト

エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50) の進捗状況報告



● 持続可能な社会構築に向けた「エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)」

エフピコグループでは、環境経営新中期計画「エフピコ・エコアクション50 (FPEA-50)」において、2020年度に向けた長期的なCO₂削減目標を策定しています。製品・生産・物流・販売・オフィスの各ワーキンググループが主体的に様々な活動を実施し、エフピコグループトータルでのCO₂削減に向けた取り組みを実施しています。

エフピコグループ長期CO₂削減目標

エフピコグループのCO₂排出量^(※)について

CO₂排出量を、2020年度までに
20%削減 (2003年度比)

CO₂排出原単位 (販売枚数あたり) を、
半減 (2003年度比)

※ 改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点 (工場、配送センター、オフィス) からのCO₂排出量および特定荷主の責任範囲の物流に伴うCO₂排出量の合計。

● バリューチェーン全体でのCO₂排出量の把握

エフピコグループのCO₂削減の取り組みに加えて、製造や物流、オフィスなどの自らの活動だけでなく、原材料調達から製品の廃棄・リサイクルまでを含めたバリューチェーン全体のCO₂排出量を把握することも重要視しています。そのためライフサイクルアセスメントの手法や、温室効果ガス排出量の算定方法に関する国際的ガイドラインである「GHGプロトコル^{*1}」のScope 3スタンダード^{*2}を研究しながら対応をしています。バリューチェーン全体での「見える化」を進め、「省資源」や「リサイクル」で効果的な環境負荷低減に努めて参ります。

※1 GHGプロトコル: 米国のWorld Resources Institute (WRI)と、持続可能な発展へのコミットメントを共有する企業で構成される連合体組織であるWorld Business Council for Sustainable Development (WBCSD)を中心に集まった世界の企業、NGO、政府機関など多数のステークホルダーによるイニシアチブです。このイニシアチブは、国際的に認められるGHG排出量の算定と報告の基準として「GHGプロトコル」を作成し、その広範な採用を促進することを目的としています。

※2 Scope 3スタンダード: 企業のバリューチェーンにおける排出量の算定に関する基準。

● 各ワーキンググループによる具体的取り組み

2020年の長期目標に連動して、各ワーキンググループでは、2012年度を目標年にした中期目標を定め、具体的なアクションを実施しています。以下に進捗状況をお知らせ致します。 ○達成 ×未達成 -未評価

WG	項目	基準年度	2012年度目標・ゴール	2011年度目標	2011年度成果	評価
製品WG	軽量化 (1枚あたり重量)	2007年度	8%削減	8%削減	8.8%削減	○
	環境負荷の見える化		全新製品に対する事前LCA評価体制の構築 カーボンフットプリント制度への対応	カーボンフットプリント対応体制の構築	6月に各サプライヤーに対してCO ₂ 情報の提供依頼。基本フォームで約40社より回答	-
	グリーン調達		全調達先をガイドラインに基づき評価	グリーン調達ガイドラインの改定	継続中	-
生産WG	生産量あたり電力量	2007年度	12%削減	9.6%削減	11%削減	○
	ゼロエミッション (最終処分率)		1%未満	1%未満	0.9%	○
	管理体制		全生産拠点に環境マネジメントシステムを導入	新規連結先へのマネジメント体制の構築	主要連結先へ導入	-
物流WG	管理体制	2008年度	荷主責任範囲全体のCO ₂ 管理システムの構築	-	達成済	-
	CO ₂ 排出総量		0.2%削減	1.5%削減	0.3%増加	×
販売WG	汎用製品に占めるエコトレー率	2007年度	75%	75%	71.5%	×
	透明容器の回収拠点数・回収量		5,000店舗	5,000店舗	3,861店舗	×
			2,400トン	2,400トン	1,381トン	×
	消費者啓発		リサイクル工場見学300企業	リサイクル工場見学300企業	205企業	×
オフィスWG	環境負荷低減	2007年度	床面積あたり電力使用量3%削減	床面積あたり1%削減	4.7%削減	○
			営業車両のCO ₂ 排出量20%削減	20%削減	21.8%削減	○
			廃棄物排出量5%削減	3%削減	9.9%削減	○
			紙使用量5%削減	5%削減	11.4%削減	○
			グリーン購入率60%	55%	54%	×
	従業員意識向上		管理者／従業員に対する「見える化」実現	従業員の環境意識の向上	・複合機のカウンタ数を掲示 ・空調機操作盤に温度・湿度設定目安を貼付	-

製品開発における取り組み



食品容器に求められる様々な機能はそのままに、より薄く、より軽く。食品流通における利便性と地球環境保全を両立すべく、たゆむことない努力を続けています。

■ 軽量化・薄肉化による製品の省資源化

環境保全の考え方に即した製品の開発は、いかに少ない資源を使って製造するかということの追求です。十分な品質と機能性を持った製品の開発に日々努力を続けています。

● 容積を変えずに質量を少なく

発泡素材を使った食品トレーや弁当容器などの場合、発泡倍率の高い素材を使用することで製品個体の容積を変えずに使用する原料の削減が可能となります。エコトレーでも19年間で約30%の軽量化を達成、製品全体では直近の9年間で約19%の軽量化となりました。



形状と容積は同じでも発泡倍率を高くすることにより、トレーを軽量化することができます。

● 少ない質量の強度を補う工夫

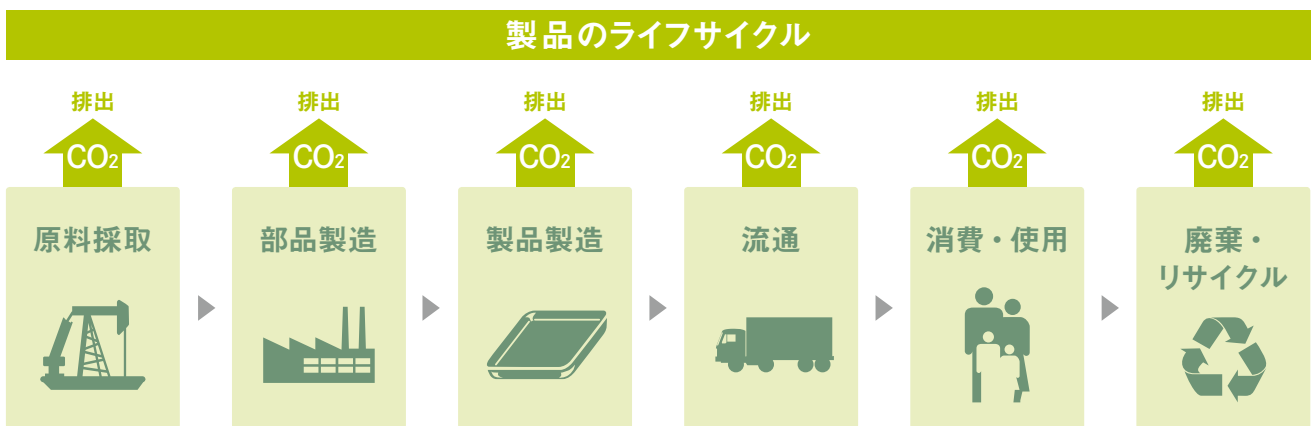
発泡倍率を高めたトレーや極薄な素材を使う透明容器などの非発泡製品の場合、強度を高めるための形状デザインが必要となります。輸送時や店頭で重ねて置いた際に負荷がかかる面に凹凸を付けて強度を増すなど、様々な工夫を施しています。



容器の縁に加工を施すことにより強度を高めています。

■ ライフサイクルの見える化

製品の開発部門では、製品毎の「環境負荷の見える化」を行うために、ライフサイクルアセスメントの手法を用いて算定を実施しています。「エコリーフ制度」や「カーボンフットプリント制度」に準じてCO₂の算定を実施すると、ライフサイクル全体で容器の材料を作るまでの行程と容器を廃棄処理する行程からの排出が非常に大きいことが分かっています。この事から、更なる容器の軽量化、循環型のリサイクルを推進することはトータルのCO₂を削減することにおいて非常に重要です。「ライフサイクルの見える化」は製品開発段階では欠かせない指標として定着しています。



● 新素材

非発泡素材を発泡させて軽量化したり、製品の軽量化・薄肉化を可能にする新たな素材の開発や従来の素材に斬新な加工を施すなど、さまざまな研究開発を行っています。

① マルチFP (MFP)	② NEWハイスター (NHS)	③ 1軸延伸PET	④ 2軸延伸PET	⑤ 透明PP
<ul style="list-style-type: none"> ○ 耐熱性・耐寒性・断熱性に優れています 耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能）/耐寒温度：マイナス40度 ○ 軽さを追求しました 軽量素材：PPフィルラーと比べて約60%軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 耐熱性・断熱性に優れています 耐熱温度：120度（電子レンジ使用可能） ○ 発泡倍率を上げて軽量化しました 従来のハイスターに比べ、約25%軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1つの方向からシートに延伸をさせることで強度をアップしました ○ 強度アップと同時に軽量化しました 無延伸PETに比べ、約25%軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 縦と横の2つの方向からシートに延伸をさせることで強度と耐熱性をアップしています OPSと同程度の耐熱性 ○ 耐油性・耐酸性に優れています 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 耐熱性・耐油性に優れています 耐熱温度：110度（電子レンジ使用可能） ○ 従来の透明PPと比べて格段に透明性が向上しました

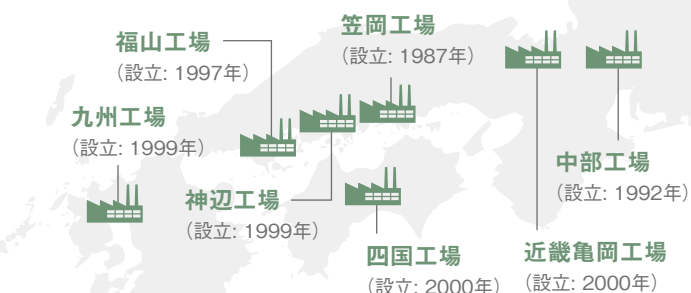
工場における取り組み



石狩市にある北海道工場では厳しい寒さに対応するため、さまざまな工夫をしています。日本全国のエフピコ工場で地域の特性とニーズに即した操業が行われています。

■ 環境負荷の見える化

生産工場における環境負荷の見える化は、各工場の状況に合わせて実施しています。設備ごとに設置した計測器をモニタリングすることにより、電力量計などの数値を把握して集中管理します。まず最初に数値による見える化を行い、この数値を分析することでどのような施策を講じるかの判断材料とするのです。



■ 「技能塾」による生産の効率化

エフピコでは生産の現場で働くオペレーターのスキルアップを目的とした「技能塾」を年2回開催しています。この研修には各工場長推薦による28名が参加し、その期間は数カ月におよびます。

- ① 2週間の実地研修
- ② 各所属工場に戻っての研修内容の実践
- ③ 再集合して各自の実践内容を検証するまとめ研修

修了者には受講の回数やコースの種類によってランク付けされたワッペンが付与されます。ソフト面での効率化の推進による環境負荷低減の一環としています。



■「ものづくりプロジェクト」による生産の効率化

生産性向上を目指す「ものづくりプロジェクト」というソフト面での施策も継続して実施しており、2012年で6年目を迎えます。年に2回全国の工場スタッフが集まって開催する成果発表会ではこれまで「活スペースの創出」、「3定管理」(定品・定位置・定量確保)、「習熟度評価」など様々な施策を実践してきました。最近では複数の作業者の行動を撮影し、ビデオ分析して得た「複式作業工程図」というツールを生み出しました。従業員のアイデアから生まれる効率化は進化し続けます。

■ 工場でのゼロエミッションと消耗品リサイクル

ゼロエミッションの取り組みとして、生産工場から排出される産業廃棄物の最終処分率1%未満達成を目標としています。また、生産過程で出る端材、製品や使用済み容器の梱包材なども廃棄することなく、可能な限りリサイクルを行っています。エフピコの生産工場とリサイクル工場はすべて隣り合わせで配置されているため、両方の工場で出た消耗品などをまとめてリサイクルすることができるのです。

■ 工場での品質マネジメント

エフピコの製品をすべての方々に安心してご使用いただくために、品質マネジメントの国際規格である「ISO9001」の認証を笠岡、関東下館、近畿亀岡の3工場で取得しています。ISOの規格を業務に取り入れることで、工場内での責任・権限の明確化、業務の標準化、教育・訓練内容の充実、生産技術の向上、従業員のモチベーション向上といった効果が生まれています。

品質方針ならびに品質目標(関東下館工場)

● 品質方針

お客様の満足度を第一に、環境に優しく安全・安心して使用頂ける、製品作りを目指します。

本方針を実行・維持・継続する為に私達は下記の事項を確立します。

- お客様の要望を的確に捉え、対応できる品質マネジメントシステムを構築し、推進・維持・確立する為の経営資源を投入する。
- 本方針の推進の為に、具体的な品質目標を定める。
- 食品衛生法等の関連法規を遵守する。
- 市場の変容、当工場の改革等に合わせ本方針を定期的に見直し、適切性を持続する。
- 本方針を全従業員に理解させる為あらゆるコミュニケーションの場を通じて周知・徹底を行う。

平成17年2月18日 株式会社エフピコ 関東下館工場
経営者 三次 雅照

● 2012年度品質目標

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| (1) 即成部署 | (5) 押出1部署 |
| ①クレーム削減：10ppb以下 | ①クレーム削減：0ppb |
| ②稼働率アップ：89.49%以上 等 | ②稼働率アップ：95.70%以上 等 |
| (2) 成型1部署 | (6) 押出2部署 |
| ①クレーム削減：22ppb以下 | ①クレーム削減：0ppb |
| ②稼働率アップ：82.35%以上 等 | ②稼働率アップ：88.53%以上 等 |
| (3) 成型2部署 | (7) 保全部署 |
| ①クレーム削減：10ppb以下 | ①設備要因クレームに対する改善対応 |
| ②稼働率アップ：90.33%以上 等 | ②設備停止時間削減 等 |
| (4) 成型3部署 | (8) 品質管理部署 |
| ①クレーム削減：20ppb以下 | ①各種品質チェック実施 |
| ②稼働率アップ：80.88%以上 等 | ②クレーム撲滅宣言大会実施(4回/年) 等 |

物流における取り組み

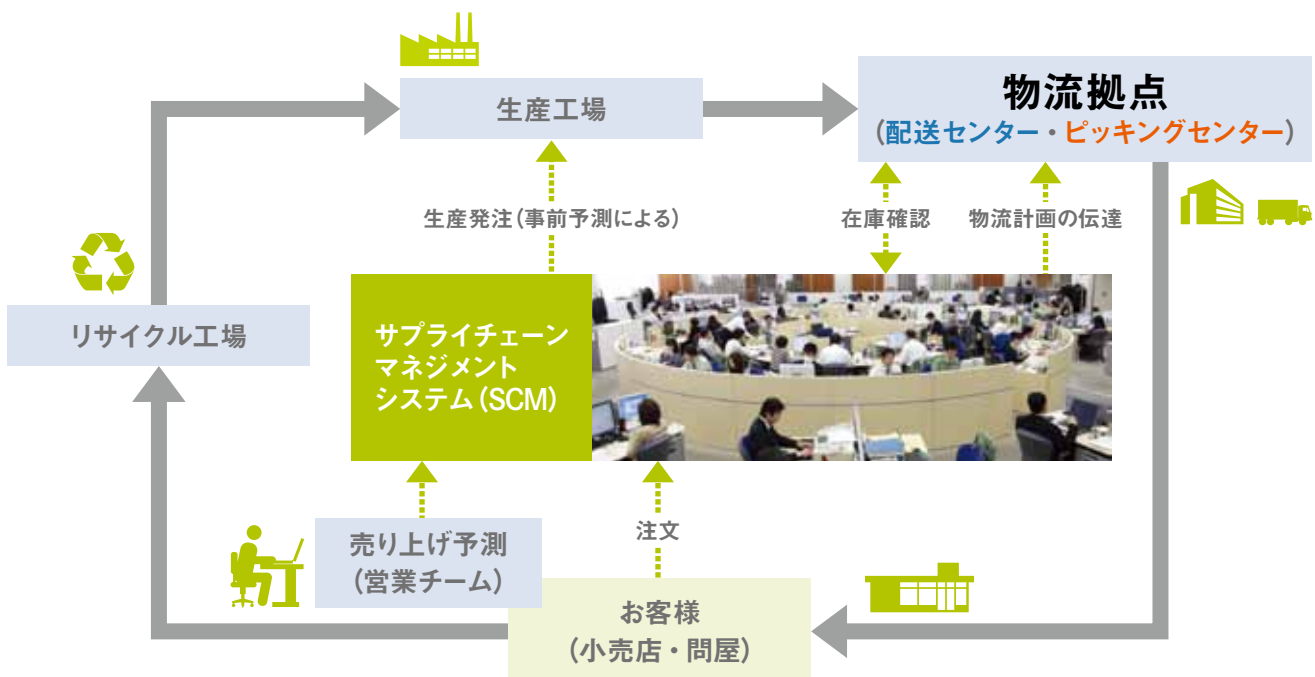


岐阜県輪之内町にオープンした中部の物流拠点では倉庫とピッキングセンターを同一フロアに隣同士で配置し、最大限の効率化を図っています。

全国7カ所の配送センターでは最新の設備による効率的な出荷が行われています。

■ 効率化・省エネ化を追求した物流システム

エフピコの物流はサプライチェーンマネジメント (SCM) システムでの中央集中管理により、製造から納品・使用済み製品の回収にいたるまでに発生するすべての物流活動を最も効率的に、最も短い移動距離とすることを目指しています。各地域に配置された配送センターとピッキングセンターを核として、地域密着による短い距離の輸送を実現しています。





ピッキングセンター
ではお客様の
オーダーに従い売り場
単位での商品梱包を
行っています。

● 配送センター

- 北海道配送センター (北海道石狩市)
- 東北配送センター (山形県寒河江市)
- 関東ハブセンター (茨城県八千代町)
- 東京配送センター (千葉県船橋市)
- 中部配送センター (岐阜県輪之内町)
- 福山配送センター (広島県福山市)
- 九州配送センター (佐賀県吉野ヶ里町)

● ピッキングセンター

- 北海道ピッキングセンター (北海道石狩市)
- 東北ピッキングセンター (宮城県大衡村)
- 関東ピッキングセンター (茨城県八千代町)
- 西関東ピッキングセンター (東京都町田市)
- 東京ピッキングセンター (東京都江東区)
- 新潟ピッキングセンター (新潟県長岡市)
- 中部ピッキングセンター (岐阜県輪之内町)
- 関西ピッキングセンター (兵庫県西宮市)
- 福山ピッキングセンター (広島県福山市)
- 広島ピッキングセンター (広島県廿日市市)
- 九州ピッキングセンター (佐賀県吉野ヶ里町)

TOPICS

中部ピッキングセンター
オープン



2011年7月にオープンした中部ピッキングセンターは岐阜羽島駅から車で約10分・大垣ICから車で約10分の場所に位置し、5階層で延べ床面積が約一万坪という広さです。本ページで使用している写真も中部ピッキングセンターと中部第二配送センターの内部です。製品の保管可能数と出荷能力が大幅にアップし、中部地域におけるさらなる配送効率が期待されます。

TOPICS

エコシップ・モーダルシフト
優良事業者表彰



エフピコ物流(株)および荷主として(株)エフピコが「エコシップマーク」認定事業者に選ばれ、「エコシップ・モーダルシフト事業の優良事業者」として、国土交通省海務局長賞を受賞しました。今回の受賞は、関東ハブセンターから九州配送センターなどへの長距離輸送を対象とした評価であり、トラック輸送のみに頼ることなく海上貨物輸送を積極的に利用したエコシップ・モーダルシフト推進の功績が認められたものです。

販売活動における取り組み



販売活動と環境保全活動。このふたつは循環型社会の実現という同じ目標に向かっていきます。

■ 環境対応型商品 「エコトレー」の販売拡大

エコトレーは使用済みトレーを廃棄せずに原料を再利用して新たなトレーを製造するという意味で、二重のCO₂削減効果があります。そこでエフピコの営業スタッフは、同じトレーの販売であればバージン原料を使った製品よりもリサイクル製品であるエコトレーをお客様に薦めています。



■ 使用済み容器回収活動の推進

消費者の方々が使用済みトレー・容器をお持ちいただく店舗内の回収拠点づくりにもエフピコは注力しています。啓発ポスターの提供など、様々な形でスーパーなどお客様のサポートを行っています。



■ リサイクル工場見学

スーパーなどでは消費者啓発の一環としてリサイクル工場見学ツアーを企画していますが、エフピコのリサイクル工場も身近なトレーのリサイクルについて学べる場のひとつとして、ご活用いただいています。工場に集められた膨大な量のトレーや容器が再資源化される様子を実際に見ていただくことは、回収活動の成果が実感できる貴重な機会でもあります。



オフィスにおける取り組み



グループ会社によるオフィスシェアは、社内の無駄削減効果にも大きく貢献しています。

● 環境負荷の見える化

- 使用電気量の月別グラフ化。
- 紙資源使用量の月別グラフ化。

● 電気使用の節約

- 冷房は28度、暖房は20度の温度設定。
- オフィス内をエリアに分けた照明と空調の管理。
- 12時からの休憩時間の45分間、事務所内・受付エリアを消灯。

● テレビ会議の活用

プレゼンテーション資料を同時に見ながらテレビ会議のネットワークを利用して会議・ミーティング等を行い、移動に伴う時間と交通費、そして交通手段を使用しないことによるCO₂削減を実践しています。

● 低公害車の導入促進

- 電気自動車：1台
- ハイブリッドカー：90台
- 低公害車：137台
- 軽自動車および小型車：13台

※2012年3月末現在

● ペーパーレスによる紙の使用量削減

各種帳票類のペーパーレスによる紙の削減およびプリントアウト時の両面出力等で紙の使用量の削減に努めています。

● 「学Navi」による環境保全情報の提供

社内のオンライン教育システム「学Navi」に環境保全のプログラムをアップし、誰もがいつでも情報を引き出すことができるようにしています。



電気使用の節約



テレビ会議の活用



低公害車の導入促進

エフピコ方式リサイクル

エフピコでは、一度使用されたトレーを回収し「エコトレー」（再生トレー）を生産しています。そのリサイクルシステムをエフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」と呼んでいます。使用済みトレーを廃棄せず、回収し再生原料として使用することによる、資源循環とCO₂削減のダブル効果があります。

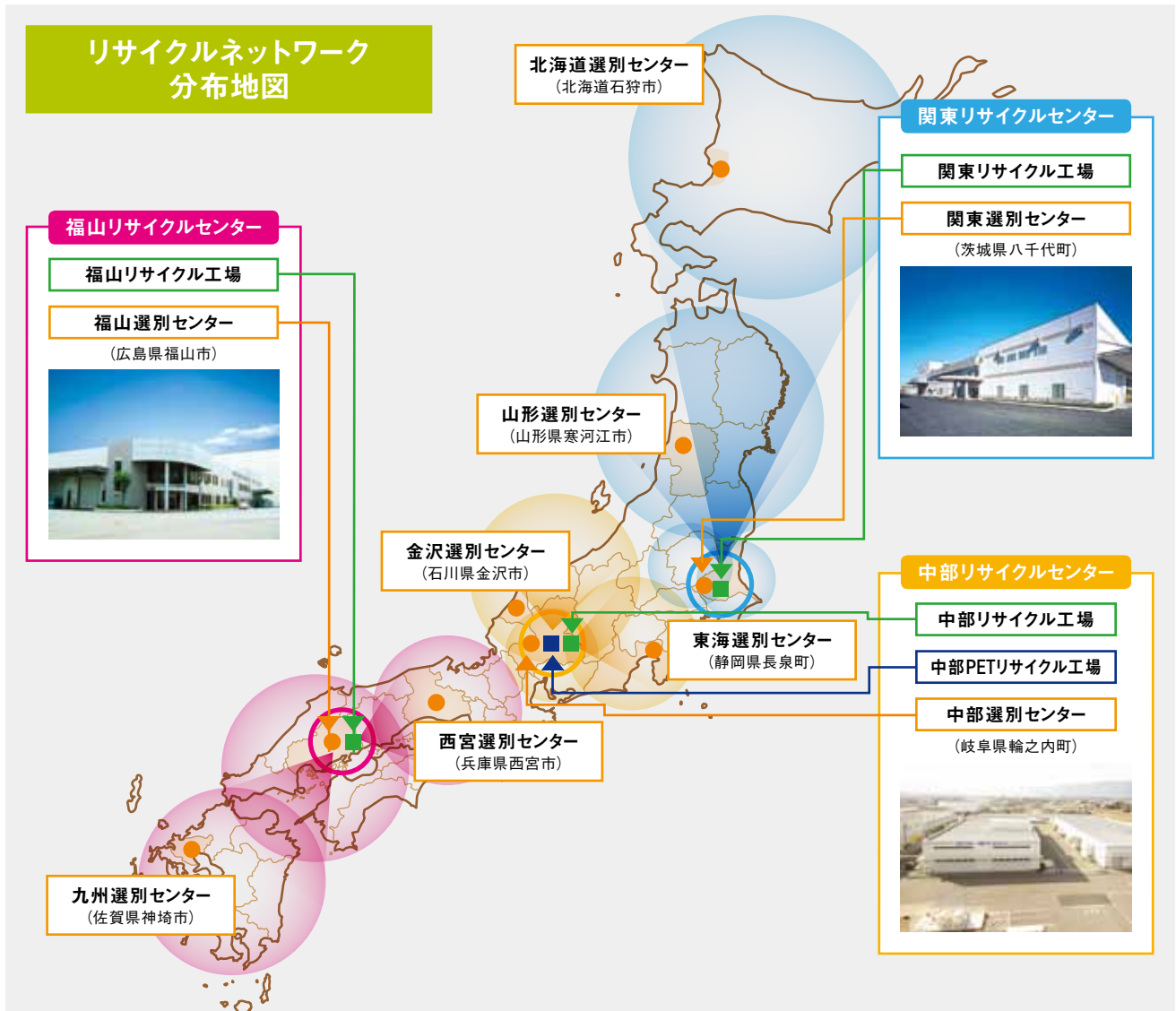
生産者であるエフピコから最終的な使用者である消費者へという道を逆にたどることで、使用済みトレーをエフピコへと戻すこのシステムは、消費者、スーパーマーケットなどの流通業者、包材問屋、エフピコの4者が一体となった協力体制で成り立っています。

エフピコの4者一体リサイクル



■ 全国のリサイクルネットワーク

エフピコのリサイクルネットワークは全国規模で効率的に配置されています。



回収したトレー・容器の選別

地域に密着した選別センターを配置し、選別済み容器を圧縮してリサイクル工場へ輸送することにより、物流による環境負荷を低減しました。



選別済みのトレー・容器は圧縮して大幅に減容します

エフピコ方式リサイクル



搬入

選別

風力選別
1次破碎

1次洗浄



回収されたトレーや容器は、各地区の選別センターに搬入されます。



再生できないトレーなどを取り除き、白トレーとカラートレーに分類します。トレーの場合、選別工程には必ず手作業が必要であり、最も時間と手間が掛かります。



さらに細かく碎きます。



水ですすぎを行った後、脱水します。



乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。



風力選別・1次破碎

風の力により細かい異物を取り除き、トレイを砕きます。



1次洗浄

水で洗浄します。



2次洗浄

アルカリ熱水で洗浄します。



ペレット

エコトレイの原料となるペレットの完成です。



エコトレイ



エフピコ方式リサイクル



回収された透明容器は、各地区の選別センターに搬入されます。



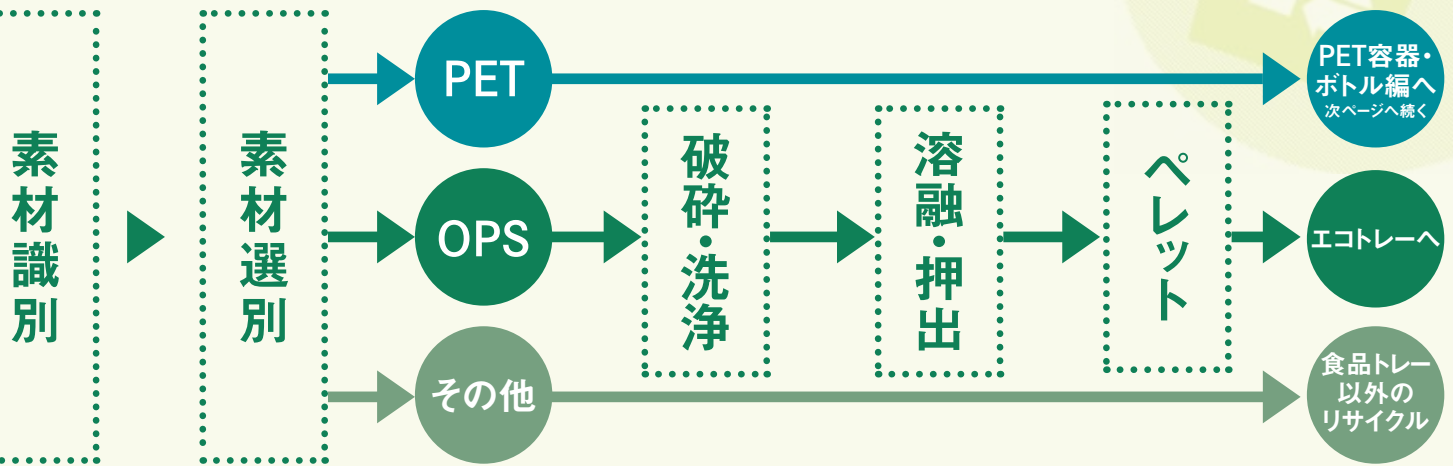
傾斜を利用し流れる量を調整します。



エコトレイの原料となるペレットの完成です。



乾燥されたチップを溶かして粒状に加工します。



一列化

次の工程のために一列化します。



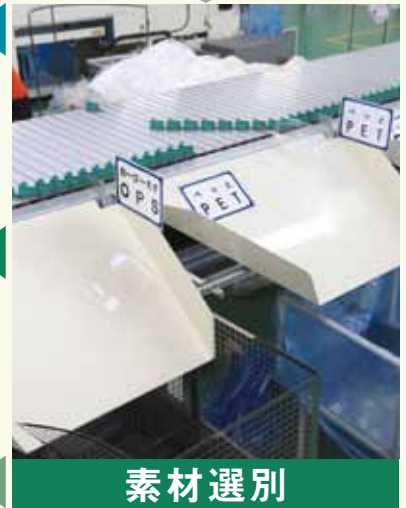
手選別・整列

素材識別装置が正確に作動するように、
人手により最終整列します。



素材識別

近赤外線により、素材を識別します。



素材選別

選別機が作動し、素材ごとに分けられます。

PET容器・
ボトル編へ
次ページへ続く

PET

OPS

その他



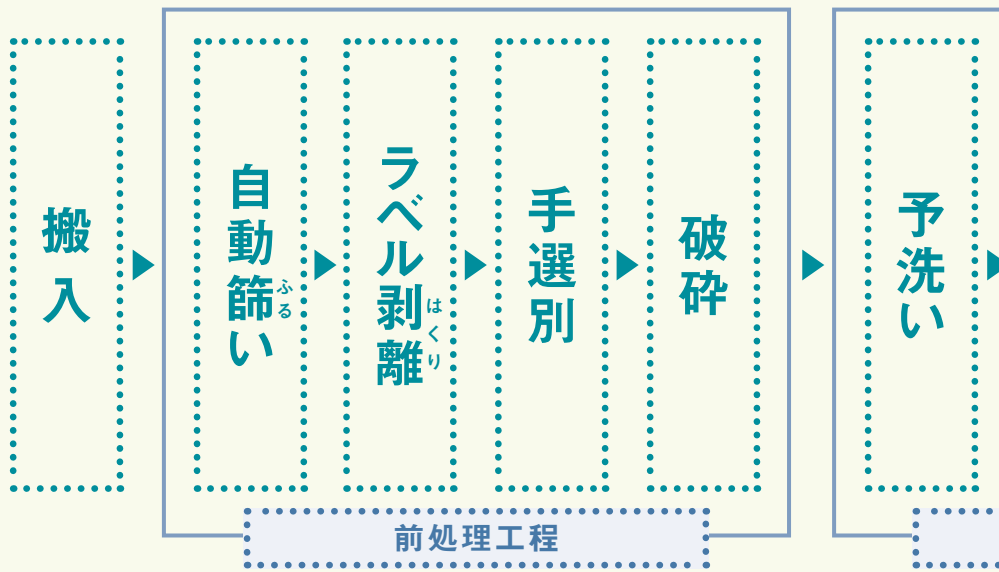
破碎・洗浄

洗浄しながら碎きます。

建築・農業資材などに再生



エフピコ方式リサイクル



搬入

キャップやラベルが付いたものも含む使用済みPETボトルが圧縮された状態で搬入されます。



前処

圧縮されたPETボトルをバラバラにし、その中から

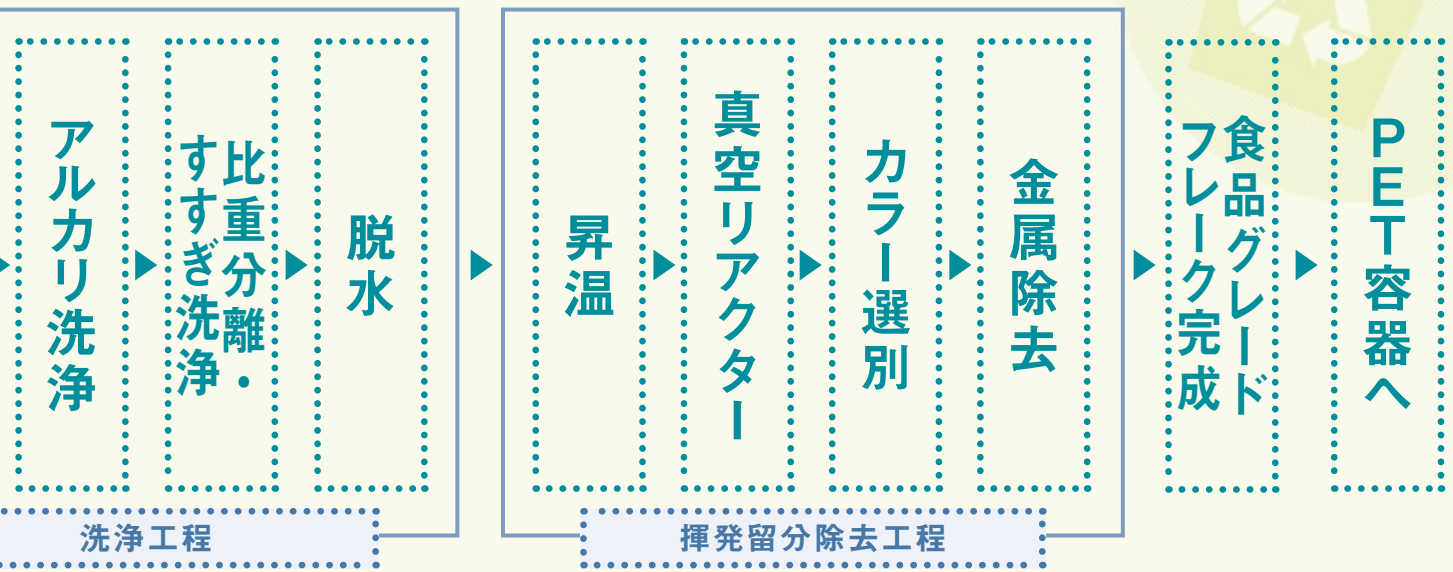


透明容器、たまごパックなど



食品グレード

食品グレードの原料として使用できるPETフレークと



理工程

ら異素材品を選別した後、砕きます。



洗浄工程

キャップとラベルの最終分離工程およびアルカリ水洗浄により不純物を除去します。



フレーク完成

なります。



揮発留分除去工程

高温真空にした反応炉を時間をかけて通過させ、揮発留分を除去する工程です。

エフピコ方式リサイクル

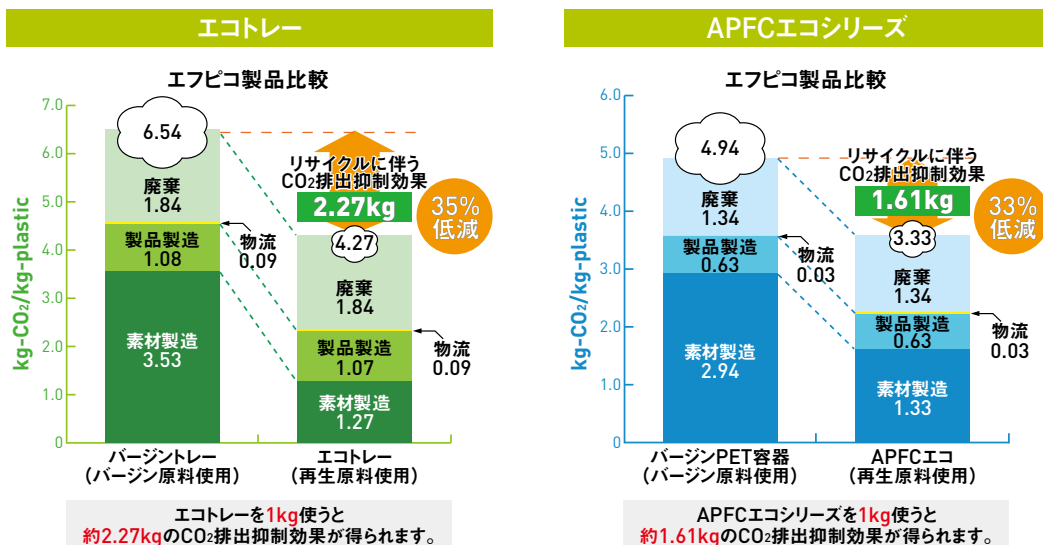
取り組みの成果

	トレー		透明容器		PETボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2011年度	7,168トン	17億9,200万枚	1,383トン	1億3,830万枚	6,647トン	2億2,160万本
累計 (1990年～ 2012年3月)	10万274トン	250億6,850万枚	2,774トン	2億7,740万枚	6,647トン	2億2,160万本

社会的な波及効果



エコリーフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO₂排出比較



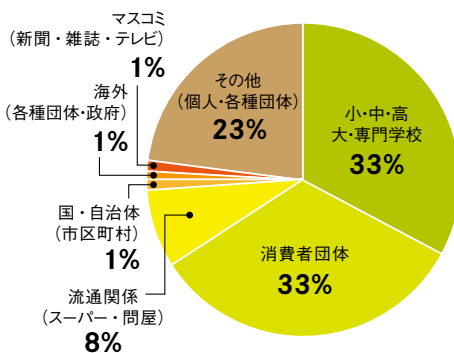
工場見学の受け入れ



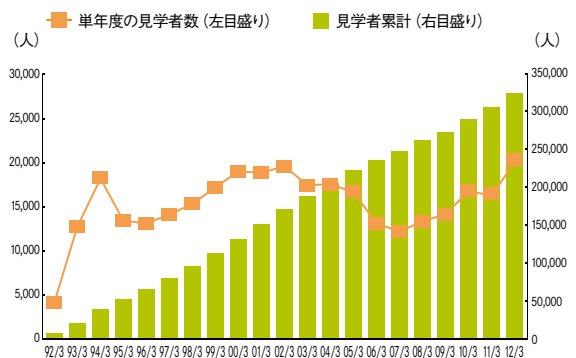
子供たちの素直な心には、モノを大切にすリサイクル活動の精神がスッと沁みこんでいくようです。

エフピコのリサイクル工場をぜひ見学下さい。消費者の方々からの協力を得て展開するこれほど大規模なリサイクル活動は、世界でも非常に稀です。「百聞は一見にしかず」。皆様のご来訪をお待ち申し上げております。

● 見学者の内訳



● 見学者数の推移



工場見学のご希望は、各工場にお問い合わせください。

見学受付日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:00（各工場共通）

＜リサイクル工場＞ 選別された容器がパレットになるまでをご覧ください。

工場名	所在地	見学受付	1団体あたり最大受入人数
関東リサイクル工場 (関東選別センター併設)	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400	120名
中部リサイクル工場 (中部PCリサイクル工場・中部選別センター併設)	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2036	60名
福山リサイクル工場 (福山選別センター併設)	〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2	本社秘書室 084-953-0001	130名

＜選別センター＞ スーパーなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

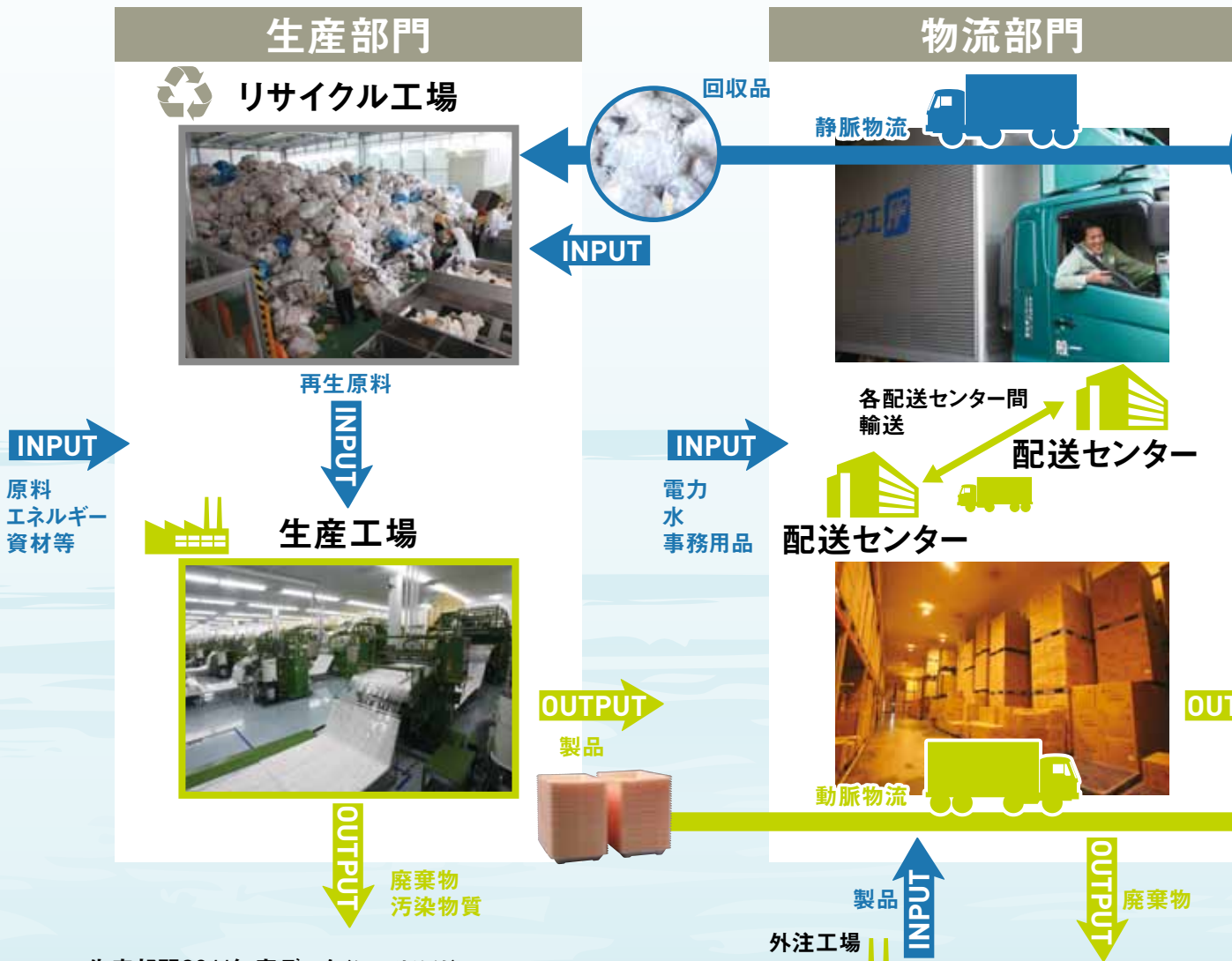
工場名	所在地	見学受付	1団体あたり最大受入人数
北海道選別センター	〒061-3241 北海道石狩市新港西1丁目778番地9	北海道選別センター 0133-75-7015	25名
山形選別センター	〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645	20名
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571	20名
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福増町北204番地22	本社秘書室 084-953-0001	15名
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288	45名
九州選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1	九州選別センター 0952-51-1028	30名

工場見学の一例(計:約90分)

- 1. リサイクルの流れの説明(10分)**
工場のエントランスで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
- 2. リサイクル工程の見学(30分)**
容器が運ばれてくるところからパレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
- 3. プレゼンテーション(25分)**
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
- 4. 説明ビデオ(15分)**
プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
- 5. 質問タイム(10分)**
見学者からのさまざまな質問にお答えします。

環境負荷の全体像

企業活動に伴い、さまざまな物質の移動や、環境への影響が発生します。私たちエフピコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。ここでは、部門ごとの物質収支・エネルギー使用量をフロー図を用いて記載しました。



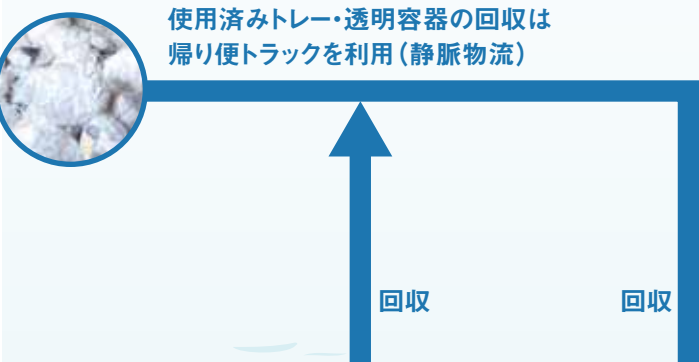
生産部門2011年度データ(年間積算値)

INPUT	エネルギー	
	電力	181,613,341 kWh
	化石エネルギー	87,715,137 MJ
	水資源	
	上水	150,507 m ³
	地下水	136,248 m ³
	工業用水	94,002 m ³
	原料(樹脂類他)	
		163,663 t
	副資材	段ボール
包装ボリ		2,240 t
潤滑油		9,527 L
シンナー		3,792 L
紙		1,661,500 枚
OUTPUT	製品	
	製品生産重量	141,282 t
	(内、エコトレー生産重量)	(17,895) t
	廃棄物	
		4,505 t
	煤塵	938 kg
	NOx	40,796 kg
環境汚染物質		
DXN類	0 mg-TEQ	
BOD	3,574 kg	
COD	4,473 kg	
SS	2,557 kg	

物流部門2011年度データ(年間積算値)

INPUT	
エネルギー	
電力	13,133,846 kWh
化石エネルギー	3,593,330 MJ
水資源	
上水	29,310 m ³
副資材	
段ボール	1,351 t
その他	
紙	10,867,700 枚
OUTPUT	
廃棄物	
	203 t
出荷トラック台数	113,160 台

※夏季の自家発電機臨時稼働及び中部PETリサイクル工場の稼働開始により、化石エネルギー使用量、大気・水質排出物質が増加しました。



オフィス部門2011年度データ(年間積算値)

INPUT		
エネルギー	電力	2,225,848 kWh
副資材	段ボール	1 t
その他	紙	5,736,000 枚
OUTPUT		
廃棄物		106 t

「わが人生、エフピコと共に」



土利川 泰彦

取締役
秘書室 ジェネラルマネージャー
昭和50年入社

安田 和之

取締役
SCM本部長
昭和54年入社

高西 智樹

常務取締役
第二営業本部本部長
昭和57年入社

時代と共に走り続けた日々

高西： 私が一番遅い入社だから、ここにいる6人全員がエフピコにいたのは昭和57年からだね。

笹部： このなかでは私が一番の古株で昭和46年の入社だ。あの頃は従業員がまだ200人くらいだった。でもその頃から会社が急激に大きくなっていったと思う。

土利川： そうですね。昭和47年からしばらくは、売り上げが毎年約倍に伸びていった。すごい時代でした。自社物流をスタートしたのもこの頃だった。

笹部： 軽い製品なので、物流費のウエイトが大きかった。そこで自社物流を始めたわけだ。

高西： この時代は大型のスーパーマーケットが生まれ育っていた時期にちょうど重なる。高度成長時代の大量生産、大量消費という流れがあり、それに合わせて食品容器も必要とされた。それまでのような対面販売から、陳列された商品をお客さんが自分で選ん

でいくようになったからね。

安田： それでもエフピコはまだまだ地方の一メーカーに過ぎず、同業他社のなかではかなり遅れていた。そこで、その遅れを取り戻そうとして、カラートレーの生産を始めた。他がやっていないことをやる必要があったわけだ。どんなことでもそうだけど、新しいことを始める時の苦労は大変なものだったね。

三次： ピンク、オレンジ、イエロー、ブルー、マーブル、木目とか、最初は作る側も大変だったよ。今までやったことがなかったわけだから。会長のサインの入った刺身用の柄トレーなんていうのもあったけど、これは結構売れた(笑)。

永井： そしてカラートレー以降が、走り続ける日々の始まりだ(一同、笑)。白トレーの時には十数アイテムしかなかったのが、カラーになって200アイテムくらいに増えたわけだから、その大変さが想像できるでしょう。小ロットでの生産を余儀なくされた。

設立50周年記念座談会のひとつとして、勤続30年以上のベテラン方に集まっていただきました。会社の発展と共に成長していった生え抜きのエフピコマンの心には、貴重な社の歴史が刻まれていました。



笹部 太一郎

専務取締役
第一営業本部本部長
昭和46年入社

永井 信幸

取締役
生産本部本部長
昭和52年入社

三次 雅照

統括工場長
昭和52年入社

安田： 小ロットのあまり、詰め合わせで製品を問屋さんに納入したね。われわれメーカーが製品を詰め合わせて問屋に納品するなんて普通はあり得ない。でもお客様である問屋さんやスーパーさんがそれを望んでいた。お客様本位というエフピコのやり方は、昔から変わっていないだね。

笹部： 私が入社した当時、エフピコのシェアは10%程度に過ぎなかった。でも、食品流通業界でカラートレーのニーズが高まり出すと、エフピコへの要求が高まりシェアを伸ばしていった。カラートレーが市場を広げたわけだ。大変な時代だったけど、われわれの苦労は予想以上の成果となって表れた。だから頑張れたと言ってもいい。

高西： あの頃はとにかく良く売れていた。売るための人も車も倉庫も足りなかった。今でも年末になると3割増しくらいの取り扱いになるけど、当時は倍くらいになった。

永井： 11月20日頃からは休みなしのような状態だったな。

あちこちの営業所から応援が来て、荷物運びに駆り出されたり、運転手をやらされたり。今はオペレーション会議をやって生産計画をきちんと立てているからそんなドタバタはもう起きない。

安田： 製品の多様化に対応するよう、この時期にコンピュータも導入した。これもまた大変だったね。

土利川： それまでは手書きの伝票だったけど、よくやっていたなという感じ。

三次： そして東京へも進出した。まだ試験的な営業という考えだったけど。東京でもその後10年くらいは大変な苦労だった。

お世話になった方々

笹部： 大変な時期や大きく発展していった時期を通して、いろいろな方々に世話になったと思う。一番はエフピコを中心に扱ってくれた問屋さんだね。

高西：「エフピコからしか買わない」という問屋さんもいた。品薄になった石油ショックの時には、うちも頑張ってたとか数を揃えて納品するようにしました。その恩返しの意味もあったのかな。それから、会長は個人的にも大変お世話になった方が何人もいらっしゃるみたいです。

土利川：原料である発泡スチロールシートを安定的に納めていただくという意味では、積水さん※は、エフピコの設立当初からの仕入れ先で、大変お世話になってきました。

永井：運送業者の方たちにも随分と迷惑を掛けました。運ぶべき製品が多すぎて1日で運びきれず、業者さんの倉庫に1泊するというようなこともよくあったので。

※積水化成成品工業株式会社

数々の失敗と苦労も発展の糧に

土利川：長くやっていけば失敗もたくさんあります。私は人事部にいた期間が長かったので、採用に関する失敗も結構あったかな。

安田：私の場合は10年ほど前のSCMの新システム導入の時、皆さんにご迷惑をかけたように思います。軌道に乗るまで半年くらい掛かってしまった。

永井：新しいプロジェクトならそんなものは普通だよ。比較的最近の話だから記憶にあるだけ。カラートレーを作り始めた時、私なんか今では言えないような失敗をたくさんやらがした。

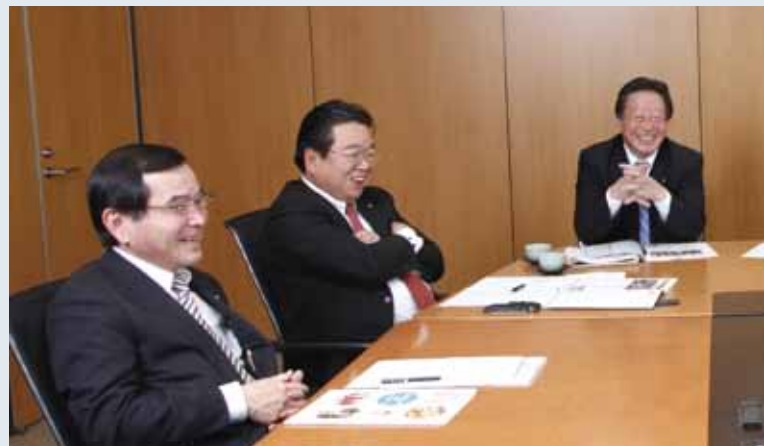
三次：カラートレーの後は新素材の開発があり、担当だった私は随分と頑張らせていただきました。容器の強度が十分でないとか、透明度が足りないとかのクレームもあったね。今では考えられないけど。その後は耐油性とか耐熱性の向上とか、改良のネタはいくらでもあったね。

高西：私は営業での苦労が一番思い出深い。ライバル社との凌ぎ合いでの苦労なので、ありきたりと言えばありきたりかもしれないが、それとリサイクルを始めた頃は本当に大変だった。なかなか理解を得られなくてね。でもスーパーさんや自治体でもリサイクルに協力してくれるところが出てきて、大きく前進できた。ありがたかったですよ。

笹部：カラートレーを扱い出した頃、リサイクルを始めた頃、それと共配事業をスタートした頃。この3つの新規



▶社名を(株)エフピコに改めた1989年には広島証券取引所に株式を上場。翌年の1990年には使用済み容器のリサイクルをスタートし、社会的責任を果たす企業として歩み始めます。





◀ 1962年、エフピコ設立時の旧社名を掲げた福山市霞町の本社社屋。現在の社名に変更するまでの26年間でエフピコは大きな成長を遂げました。



事業を始めた時の苦労は並大抵ではなかった。軌道に乗せるのに何年も掛かっている。誰もやっていないことを始める時の道づくりは相当な粘り強さと覚悟が必要だからね。

「エフピコに育てられた」という思い

三次： 長くエフピコで働き続けられたのはやっぱり、常に新しいことに挑み続けてきたからかな。そうせざるを得ない状況に置かれた。われわれ生産の現場に携わる者たちにとっては、新しい技術を習得していくことに達成感も楽しさもあった。

永井： まさにその通りだね。休み無く続けてきたというイメージ。それくらい大変でもあり、面白さもあった。

笹部： 大変だったけど目に見える結果がいつもついてきた、ということだね。それと、他社ではできないような経験をさせてもらった。エフピコでは“業界初”というのがたくさんあったから（笑）。その意味では、変化に対応できない人はここには向かないと思う。

高西： 皆が言っている通り常に新しい目標が目の前に現れるわけだけど、その目標の設定が絶妙なんです。達成するのはもの凄く大変だけど決して不可能ではない。これは会長の緻密な計算なのか、天性の感覚なのかは分からない。結果として頑張っただけで達成できるから、面白くてまた挑戦する気になる。

安田： 私の場合所属部署が変わる度に新しいプロジェクトに携わった。でも結果がついてきたから続けてこれたんだろうね。

土利川： やることは常にたくさんあって、余計なことを考える暇もなかった。皆そうだと思うけど、やりがいのある仕事を与えられ、頑張る機会を与えられて人として育ててきたのだと思いますよ。

笹部： エフピコの若い社員たちに言いたいのは、結果が出るまで頑張っただけでいいということ。ありきたりの言い方だけど、努力した分は必ず返ってくる。

全員： その通り。少なくともエフピコではそうだ。

社会における取り組み

ステークホルダーのみならず、どこかで繋がっている方々のため、
エフピコが企業市民として行っていることをご説明します。



SOCIETY

エフピコにはグループ全体で370人の障がいのある従業員が働いています。職場となる生産工場や選別センターは全国に配置されていますが、東日本大震災の被災地となる岩手、宮城、福島の3県には障がい者が働く場がありませんでした。被災したことにより健常者でも地元での雇用機会は大幅に減っていますが、状況は障がい者にとってさらに過酷です。そこでエフピコは宮城県内において、障がい者が働く場を新たにつくることにしました。仙台市に使用済み容器を選別するための選別センターを立ち上げ、東北地方における回収事業を拡大させるのです。被災地の復興と障がい者の雇用拡大の両方を実現するこの試みは、2012年の6月にスタートします。



エフピコのお客様である陸前高田市のスーパー「マイヤ滝の里店 / (株) マイヤ」は被災地コミュニティの核として、仮設店舗での営業で頑張っています。エフピコは引き続き、東日本大震災の被災地に対するサポートを行ってまいります。



同市内の店舗
(マイヤ高田店)

TOPICS

北京で開催の
国際シンポジウムで講演

日本政府は「クールジャパン」戦略の一環として内閣官房知的財産戦略推進事務局が主体となり、世界16ヵ国で日本の魅力を伝えるシンポジウムを実施しています。2012年3月に中国の北京で開催されたシンポジウムにおいて、社長の佐藤に講師としての参加要請がありました。講演のなかで、日本の食文化における器の役割とエフピコが製造する簡易食品容器について、また拡大生産者責任の観点から実施しているリサイクル事業、障がい者の雇用などについて話をしました。今後も国内外を問わず、エフピコの事業内容を積極的に発信していく所存です。



TOPICS

障害者雇用優良事業所
優秀勤労障害者表彰

2011年9月15日、(独) 高齢・障害者雇用支援機構主催による広島県の障がい者雇用に関する表彰式が行われ、エフピコ愛パック(株)として初めて広島工場が『優秀勤労障害者』の部門で表彰されました。受賞したのは勤続5年目の加藤健太と木元美那のふたりです。ふたりはそれぞれ自閉症とダウン症という障がいがあるにもかかわらず、おのおのの努力により受賞に値する働きぶりを見せてくれました。他の障がい者従業員も受賞できるよう、さらなるサポートと環境の整備を目指していきます。



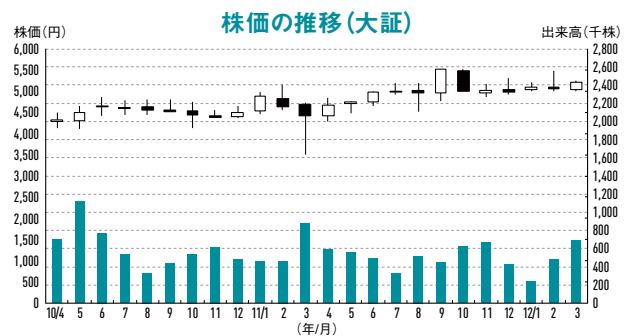
株主とのかかわり



会社情報の開示と経営の透明性の確保を通じ、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの充実に努めています。生産・物流・リサイクル施設見学会などさまざまなプログラムを実施しています。

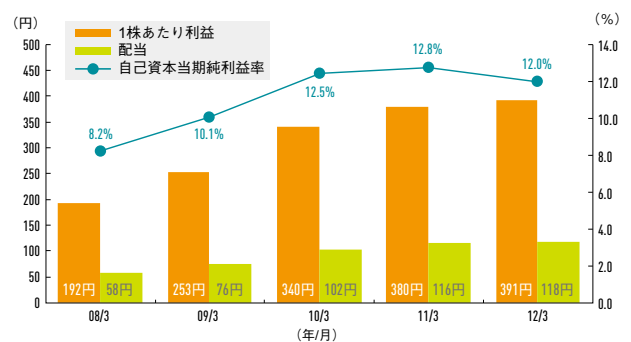
■ 企業価値の拡大

エフピコは、株主本位の経営を実践するため、グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり純利益450円を目標としています。メーカーとして「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針を追求してまいります。



■ 継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆さまへの利益向上に見合った利益還元を最重要課題の一つと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株あたり118円(うち第2四半期末配当金58円)の配当を実施しました。



TOPICS

個人投資家向け会社説明会

2011年7月26日、初めての個人投資家向け会社説明会を実施しました。当日は200人を越える個人投資家の皆様にお越しいただき、エフピコの事業内容や経営戦略などについてご理解をいただきました。今後、同様の説明会や施設見学会を重ねて開催していく予定です。





地域活動への積極的な参加は企業市民としての責務であると同時に社会とのつながりを得る喜びでもあります。

■ 地域イベントや各種展示会への参加

一般の消費者の方々との触れ合いを求め、エフピコは環境や食をテーマにしたイベントやビジネス向け展示会に参加しています。これらは消費者の皆さまとのコミュニケーションの場であるばかりでなく、社会の一員としてのつながりと絆を深める貴重な機会でもあります。



● エフピコが2011年度に参加した主なイベント

日付	イベント名	開催地
2011年4月	先端技術館@TEPIA	東京都
2011年6月4日	第6回府中環境フェスタ	東京都
2011年6月5日	平成23年度「環境の日」ひろしま大会	広島県
2011年8月26日～27日	とっとり産業フェスティバル2011・鳥取環境ビジネス交流会2011	鳥取県
2011年10月29日～30日	やまがた環境展2011	山形県
2011年10月30日	福山市「第10回リサイクルフェスタ」	広島県
2011年11月5日	第6回おかやま・もったいない晴れの国フォーラム	岡山県
2011年11月12日～13日	深谷市産業祭	埼玉県
2011年11月25日～26日	エコ・イノベーションメッセ2011 in ひろしま	広島県
2011年11月26日～27日	イオン北海道「お客様と一緒にエコストア」	北海道
2012年2月5日	岐阜県家庭ごみ減量化推進県民大会	岐阜県
2012年3月25日	子どもエコクラブ全国フェスティバル2012	東京都

■ 出前授業の実施

教育機関や自治体主催のフォーラム等で出前授業や講演活動に積極的に参加し、ゴミの減量化や資源の有効利用を中心にエフピコの取り組みを具体的に紹介しています。当社が所在する広島県においては、広島市教育委員会が主催する「企業とコラボで環境教育」で多くの市内の小学校へ訪問し、出前授業による環境教育を行っています。この度この功績を讃えられ、広島市教育長より感謝状を頂きました。



お客様とのかかわり



1年を通して東京本社で実施する売り場づくりの提案会と年に1回イベント会場で開催する総合展「エフピコフェア」。ともにお客様との貴重なコミュニケーションの場となっています。

■ 売り場づくり提案会

東京本社のキッチンスタジオなどで行う売り場づくりの提案会は、年に数回実施しています。日々の営業活動ではお客様のところに向いて商品や売り場づくりの提案を行っていますが、説明のための資料やツールを持ち込むことには限界があります。そこで実施するのが、万全の体制でお客様へのプレゼンテーションを行う提案会です。この提案会はエフピコのストア支援という部署が中心となっており、営業チームをサポートする良き女房役を務めています。

提案会の開催にあたっては全国を網羅するエフピコの営業拠点からお客様に声を掛け、各地からたくさんの方にお越しいただいています。2012年1月25日に実施の鮮魚をテーマにした提案会(写真上・下)では、午前と午後1回ずつの会においてそれぞれ200名近い来場がありました。最初にプレゼンテーションを行い、その後はキッチンスタジオでプレゼンテーションに即した展示をご覧いただきました。



● 営業拠点

大阪支店 (大阪府豊中市)	北陸営業所 (石川県金沢市)
札幌営業所 (北海道札幌市)	名古屋営業所 (愛知県名古屋市)
仙台営業所 (宮城県仙台市)	広島営業所 (広島県広島市)
新潟営業所 (新潟県新潟市)	四国営業所 (香川県高松市)
静岡営業所 (静岡県静岡市)	福岡営業所 (福岡県福岡市)

★ 本社、東京本社にも営業拠点があります。





■ エフピコフェアの開催

エフピコフェアはエフピコグループが製造・販売・提供するほとんどすべての製品とサービスを一堂に集めて披露する展示会であり、東京で開催しています。今年度は2012年2月22日～24日の3日間、東京有楽町にある東京国際フォーラムで行い、全国から約1万2千人のお客様にお越しいただきました。

今回のテーマは「元気売り場百選～ニッポン北から南から売れる売り場が大集合」。惣菜、青果、米飯、精肉、寿司、鮮魚と6つのコーナーでさまざまな“売れる売り場”を再現し、来場したお客様に売り場の提案を行いました。その他にもエフピコの環境に対する取り組みを展示する環境コーナー、新製品で作る売り場提案、消耗品・包装資材の紹介、グループ企業の展示などエフピコグループのすべてをひとつの会場に凝縮した中身の濃い内容で展開しました。

エフピコフェアはエフピコグループ最大の展示会であり、お客様との大切なコミュニケーションの場でもあります。今後もお客様の期待を裏切ることのないフェアを開催してまいります。



障がい者の雇用



勤務中の真剣な表情も緩むランチタイムですが、エフピコグループの障がい者従業員は、誰もが現場の頼れる戦力として働いています。

■ 個々の能力を活かす3種類の事業

エフピコグループで働く障がい者の仕事内容は大きく分けて3種類あります。障がい者一人ひとりの障がいの度合いにより、作業の難易度や支援体制が異なるからです。多くの障がい者に雇用の機会を提供し、可能な限り自己実現のサポートを行うことを考慮した結果、現在では以下のような形態になりました。



● 容器組立・二次加工事業

主にウッド製品の組立を行っています。継続的な就労を可能にする職場とするための体制を整備し、サービス管理責任者や専任の指導員のもと、各自の適性や能力に合わせた仕事を通して、社会的に自立できる力を身に付けていきます。



◆ 容器成形事業

容器成形の工場では、工程が半オートメーション化され、手作業の部分を障がい者が担当しています。障がい者と健常者が同様の職務を担いながら共に働く職場は常に活気に満ちています。



★ リサイクル選別事業

使用済みトレイの選別作業や透明容器の選別・整列作業などを行っています。それぞれの職場にはサービス管理責任者や専任の指導者を配置し、職場での基本的な生活をサポートしながら、障がい者一人ひとりの能力向上を目指しています。

■ バリアフリーなリクリエーション活動

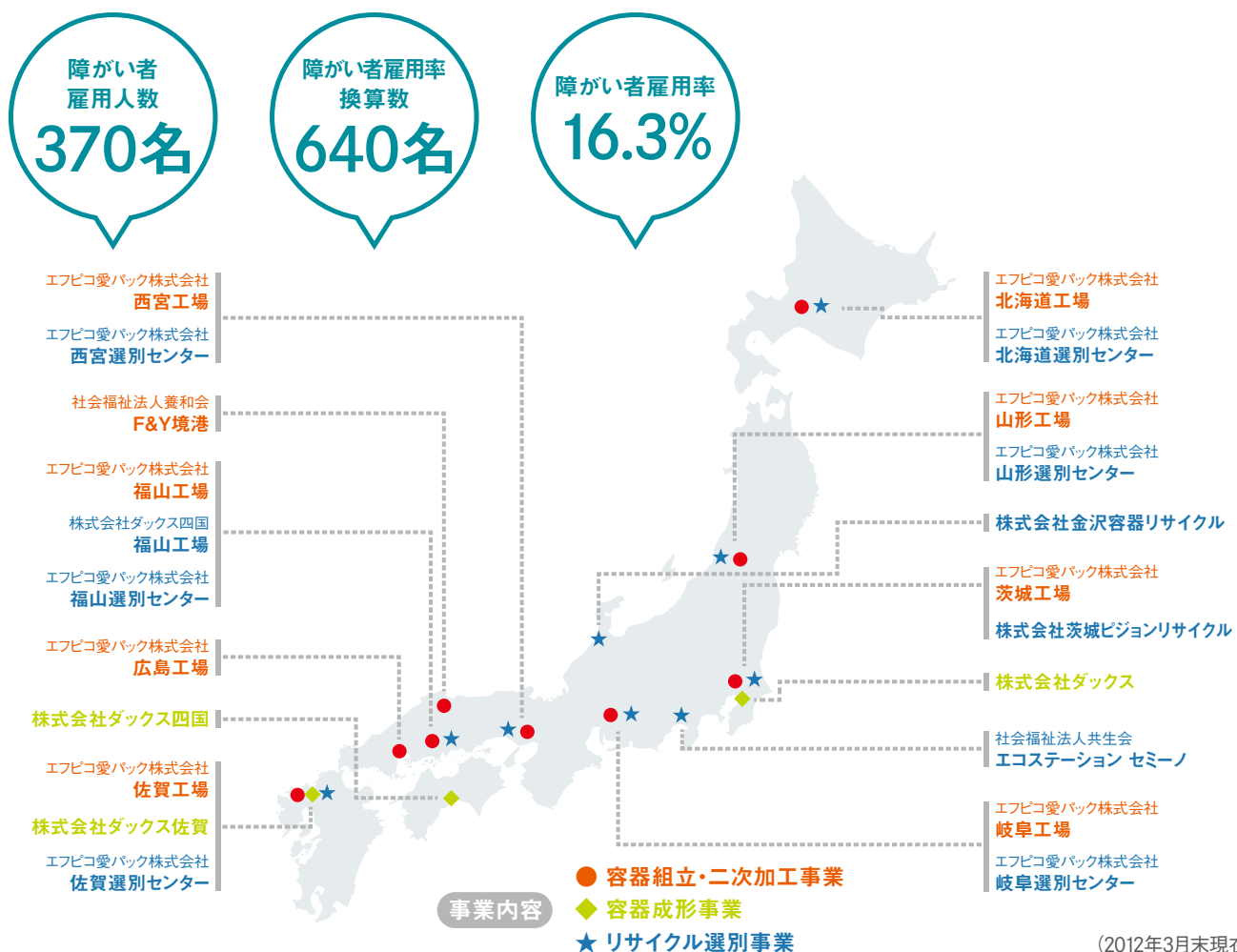
エフピコがフロアホッケーに取り組み始めて、4年目に入りました。ユニバーサルな競技ということで、普段所属している部署や障がいの有無に関わらず、多くの社員が参加し汗を流すことで、連帯感や組織としての一体感も生まれています。山形工場から、高知、福山、茨城、佐賀、岐阜、広島と広がって大会でも優勝を争う実力を備えてきています。また、県の職員や地域の企業、福祉施設の参加など、各地域での広がりも出てきました。



障害者雇用優良企業
厚生労働省 2012

障害者雇用優良企業認定

厚生労働省が発行する、障がい者就労支援に関して特に優れた取り組みを行う企業としての認定です。エフピコは2009年に認定を受けました。



社員とのかかわり



ハワイへの研修旅行は毎年の恒例行事。グループ会社の垣根を越えた交流も、この行事の効果です。

■ 福利厚生での取り組み

○ ワークライフバランス

広島労働局長より『子育てにやさしい企業』として認定されています。女性社員の育児休暇の取得率は100%です。

○ レクリエーション活動への補助

社員旅行や忘年会、新年会、サークル活動などを対象として補助金が支給されます。

○ e-ラーニング

PCスキルや会計知識の修得、各種情報の共有を可能とするオンラインツールを提供しています。

○ 「エフピコ倶楽部」

社員とその家族が利用できる会員制の福利厚生サービスです。

○ 海外流通事情視察研修

毎年グループ全社から選抜された約40名が参加しています。

○ 子育てにやさしい企業

エフピコは2008年に広島労働局より「基準適合一般事業主認定通知書」が授与され、『子育てにやさしい企業』として公的に認められました。

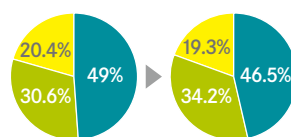


■ 社内アンケート調査の結果(抜粋)

隔年で実施している社員の意識調査のアンケート結果です。社員の意識と隔たりが生まれないう、この調査結果を活かしてより良い職場環境の創造を目指します。

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ

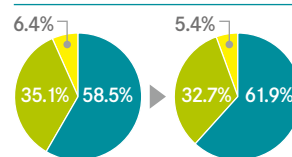
1. 休日、長期休暇は十分ですか？



平成21年度

平成23年度

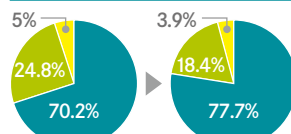
2. 環境は明るく、活気がありますか？



平成21年度

平成23年度

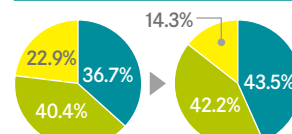
3. 社員の定着性は良いと思いますか？



平成21年度

平成23年度

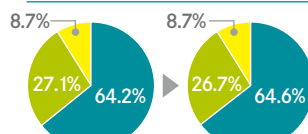
4. 福利厚生のあり方、内容に満足していますか？



平成21年度

平成23年度

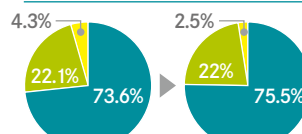
5. 働く環境は、良いと思いますか？



平成21年度

平成23年度

6. 今後も、続けてこの職場で働きたいですか？



平成21年度

平成23年度

エフピコのあゆみ

沿革・表彰

1962	7月	福山パール紙工(株)設立。広島県福山市霞町に本社を設置し、PSP成型加工を開始	5月	代表取締役社長小松安弘が『藍綬褒章』を受賞
1968	3月	業容発展に伴い、本社を現在地(福山市曙町)に移転	6月	福山リサイクル工場が『ひろしま環境賞』受賞
1971	1月	ウッド組立食品容器の製造を開始	8月	『HMRトップセミナー』を開催
1972	4月	福山配送センターを開設	9月	社団法人大垣青年会議所主催『西美濃共創アワード'97』にて『こんな会社を誇りにしま賞』受賞
1975	9月	総合包装用品販売のチェーン店「モダンバック」を福山市に設立	1997	日本食糧新聞主催『第6回日食環境資源協力賞』受賞
1976	6月	自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催	10月	『リサイクル推進功労者等表彰事業』にて福山リサイクル工場が『リサイクル推進協議会会長賞』受賞
1979	7月	配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立	12月	新素材容器「エクスター」を開発し、一貫生産のため福山工場(福山市)を竣工
1980	1月	物流の合理化、効率化のため福山第一配送センターを開設。このころからトレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する	1998	10月 福山配送センターに新倉庫竣工
1981	6月	食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始	2月	代表取締役社長小松安弘が『第19回毎日経済人賞』を受賞
1982	3月	高級食品容器製造のため、定位置成型技術を開発	1999	4月 エフピコモダンバックにて、カタログ販売を開始
	4月	東京支店を開設	10月	新素材容器「ハイスター」を開発
1983	10月	大型ホストコンピュータを導入し、EDI(電子データ交換)による受発注を開始。PSP製電子レンジ用耐熱容器を開発		『リサイクル推進功労者等表彰事業』にて『内閣総理大臣賞』受賞
1984	5月	代表取締役社長小松安弘がPSP成型加工工業組合理事長に就任	1月	特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県)を竣工
	1月	東京配送センターを開設	MAPS(容器内気体調節式包装システム)デザインセンター(福山市)を新設し実験開始	
1985	2月	総合展示会「パールフェア」を初めて東京で開催。大阪支店を開設	3月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
	5月	福山第二配送センターを開設	2000	3月 関東つくば工場(茨城県)を稼働開始
	6月	総合展示会「パールフェア」を初めて大阪で開催	5月	エフピコモダンバックにて、インターネットとCD-ROMを利用した通信販売を開始
1987	1月	ソリッド食品容器の原反生産から成型加工までの一貫生産を開始	7月	関東下館工場(茨城県)を稼働開始
	4月	100%出資の子会社エフピコ商事(株)を設立	10月	近畿亀岡工場(京都府)を稼働開始
	9月	大幅な省人化を果たす笠岡工場(岡山県)を竣工	2月	関東第2配送センター(茨城県)を稼働開始
	12月	フロンガスを使用したPSPを全廃	5月	『エンターパック(ワンタッチ自動トップシール機)』の国内独占販売契約を韓国エンターライン社と締結
1988	3月	カイズファイバー社(米国)を通じ、南ア・ホルデンリミテッド社と技術供与契約を締結。関東配送センターを開設	2001	7月 『第4回エコライフびわ湖賞』にて『アイディア部門優秀賞』受賞
	12月	ワシントンで開かれたFPI(全米食品サービス容器協会)総会に代表取締役社長小松安弘が出席し、地球環境問題などについて演説をおこなう	11月	東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に変更 東京本社にキッチンスタジオを開設
1989	1月	CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める	2002	2月 更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の再建スポンサーとして会社更生手続き開始
1989	7月	中部配送センターを開設	1月	更生会社中国パール販売(株)及び更生会社バックドール(株)の更生計画認可決定(バックドール(株)は2003年5月更生手続き終結、中国パール販売(株)は2005年5月更生手続き終結)
	11月	広島証券取引所に株式上場	2003	7月 東日本ハブセンター完工 山形工場稼働開始(山形県寒河江市)
1990	12月	東北配送センターを開設	11月	『ウエステック大賞2003』にて『事業活動部門賞』受賞
1991	2月	大阪証券取引所市場第二部に株式上場	3月	東日本サンプルセンター(茨城県坂東市)、西日本サンプルセンター(広島県福山市)を開設
	4月	新物流センター本部を開設 バルディーズ研究会『会員部門最高得点票賞』受賞	2004	5月 東北配送センター(宮城県黒川郡)を山形工場(山形県寒河江市)隣接地へ移転
1992	10月	『リサイクル推進功労者等表彰事業』にて東北リサイクル工場が『平成4年度リサイクル推進功労者賞』受賞	12月	東京本社2階にテイクアウトの形態で容器とメニューの研究開発を目的とする惣菜店舗「Cook Labo(クックラボ)」を開設
1993	3月	財クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞	2005	9月 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場 『愛・地球賞(財日本国際博覧会協会・日本経済新聞社主催)』を受賞
1994	10月	関西配送センターを開設	6月	サンプル受付センターを稼働開始 特例子会社(株)ダックス佐賀設立
1995	4月	物流業務全般をエフピコ物流(株)に移管	2006	9月 (株)ダックス四国が独立行政法人高齢・障害者雇用支援理事長賞受賞
	2月	『兵庫県環境にやさしい事業者賞』受賞	10月	就労継続支援A型子会社を目的とする「広島愛パック(株)」設立
	4月	第22回「エフピコフェア96」を東京で初開催	12月	『財小松育英会』設立
1996	6月	『第4回横浜環境保全活動賞』受賞		
	10月	『リサイクル推進功労者等表彰事業』にて中部リサイクル工場が『通商産業大臣賞』受賞		
	1月	ホームページを開設		
1997	3月	財クリーン・ジャパン・センター主催『再資源化貢献企業表彰事業』にて『通商産業省環境立地局長賞』受賞		

エフピコのあゆみ

2007	2月	関東下館第2工場を稼働開始	
	3月	就労継続支援A型子会社を目的とする「エフピコ愛バック(株)」設立	
	4月	「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞 エフピコ八千代センターを稼働開始	
	8月	エフピコ愛バック(株)佐賀工場を稼働開始 「ものづくり大賞」にて『経済局長賞』受賞	
	9月	エフピコ愛バック(株)岐阜工場、茨城工場を稼働開始	
	10月	エフピコ愛バック(株)西宮工場、山形工場を稼働開始	
	11月	「財小松奨学財団」設立	
	12月	本社新社屋(福山)竣工	
	2008	2月	退職者の親睦団体である「エフピコ松栄会」設立
		8月	日本経済新聞社と(株)ニューオフィス推進協議会が主催する「第21回日経ニューオフィス推進賞」にて「中国ニューオフィス推進賞」を受賞
	2009	3月	第1回ふくやま環境賞『事業所部門』受賞
		5月	西関東ピッキングセンター稼働(東京都町田市)
6月		太洋興業(株)より包材部門を事業譲受 代表取締役会長 小松安弘が「第11回企業家賞」を受賞	
8月		(株)茨城ビジョンリサイクルを設立	
10月		(株)富山陽成社より日本パール容器(株)を事業譲受して、エフピコ日本パール(株)を設立	
2010	3月	「2010エフピコフェア」を東京ビッグサイトで開催	
	4月	ユカ商事(株)より包装資材等の商品仕入事業を譲受 (株)アルライトを連結子会社化	
	6月	(株)アイ・ロジック福山ピッキングセンター開所	
	10月	インターバック(株)を連結子会社化	
2011	12月	ダイヤフーズ(株)を連結子会社化	
	2月	「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞 代表取締役会長 小松安弘が「第9回渋沢栄一賞」受賞	
	5月	アイ・ロジック中部ピッキングセンターを竣工	
	9月	仙台営業所を移転統合 エフピコ愛バック(株)広島工場が(独)高齢・障害者雇用支援機構より「優秀勤労障害者」部門で表彰受賞	
2012	12月	(株)エフピコ及びエフピコ物流(株)がエコシップ・モータルシフト優良事業者として「国土交通省海事局長賞」を受賞	
	2月	エフピコフェア2012「春呼ぶ元気売り場百選」を開催(来場者数12,000人)	

1996	2月	北海道リサイクルセンター稼働開始
	8月	エフピコ物流(株)が「グリーン経営認証」取得
	11月	沼津リサイクルセンター稼働開始
1998	4月	関東リサイクルセンターにカラートレー自動選別機導入
	7月	工場見学者累計10万人突破
1999	8月	福山リサイクルセンターに自動素材選別機導入
	4月	主力3工場(岡山県笠岡工場、広島県福山工場、福山リサイクルセンター)でISO14001 認証取得
2000	5月	エコトレーが第20類で商標登録(第4387266号)
	10月	各リサイクルセンターをリサイクル工場に呼称変更 関東リサイクル第1工場稼働開始
2001	11月	旧工場を関東リサイクル第2工場に改称
	5月	東海リサイクル工場(旧沼津リサイクルセンター)閉鎖
2003	9月	福山リサイクル工場に透明容器リサイクル専用ライン新設
	2月	関東リサイクル第1工場でISO14001 認証取得
	3月	岡山県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	関東リサイクル第1、第2 工場を集約 関東リサイクル工場に改称
	5月	佐賀県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
2004	6月	岐阜県にて「エコトレー」が廃棄物リサイクル製品に認定
	10月	宮城県にて「エコトレー」が廃棄物再生資源利用製品に認定
	11月	工場見学者 累計20万人突破
	3月	広島県にて「エコトレー」がリサイクル製品登録制度に登録
2005	12月	「トレー to トレー」が第20類&第40類で商標登録(第4322974号)
	4月	CO ₂ マネジメント委員会設置
2006	5月	「エコトレー」が第40類で商標登録(第4864115号)
	11月	笠岡工場ISO9001 認証取得
	3月	関東下館工場ISO9001 認証取得
2007	4月	近畿亀岡工場ISO9001 認証取得
	10月	環境経営5ヵ年計画スタート
	12月	屋上緑化対応の工場稼働開始(中部第2工場)
2008	12月	太陽光発電システムを備えた本社新社屋の落成 透明容器の光学式自動素材選別装置稼働開始
	8月	茨城選別センターを稼働開始
2009	10月	西宮選別センター、岐阜選別センターを稼働開始
	1月	福山選別センターを稼働開始
	8月	(株)金沢容器リサイクルを稼働開始
	8月	佐賀選別センター稼働開始
2010	9月	福山リサイクル工場に新洗浄ラインを導入
	3月	茨城県にて「エコトレー」がエコ製品に認定
	4月	東海選別センター稼働開始
	8月	関東リサイクル工場に新洗浄ライン導入
2011	9月	九州選別センター稼働開始
	10月	工場見学者累計30万人突破
	10月	山形選別センター稼働開始
2012	10月	北海道選別センター稼働開始
	12月	中部リサイクル工場稼働開始
	4月	中部PETリサイクル工場稼働開始
	4月	環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
2011	5月	中部リサイクル工場に導入したPETメカニカルプラントがFDA(米国食品医薬品局)NOLを取得
	10月	「エコトレー」が山形県のリサイクル製品として認定
2012	12月	再生PET容器「エコAPシリーズ」が財団法人環境協会よりエコマーク商品認定を取得
	2月	「エコトレー」が北海道のリサイクル製品として認定
2012	4月	再生PET容器「APFCエコシリーズ」を上市

環境・リサイクル

1990	9月	エフピコ方式のリサイクルスタート
	12月	笠岡リサイクルセンター稼働開始
1991	10月	関東リサイクルセンター稼働開始
	10月	東北リサイクルセンター稼働開始
1992	11月	エコトレーが業界初のエコマーク認定
	3月	エコトレー販売開始
	4月	環境対策室設置
	5月	中部リサイクルセンター稼働開始
	7月	鳥取市が当社と協力して自治体で初めてトレー回収を開始
1993	9月	九州リサイクルセンター稼働開始
	10月	学校回収スタート、社内のトレー回収スタート
	2月	福山リサイクルセンター稼働開始
1993	12月	沖縄減容工場稼働開始

編集後記

2011年の終わりに12年の初めにかけて、日本列島は各地で大雪に見舞われました。北海道の生産と物流の拠点がある石狩市も例年に増して激しい積雪があったそうです。本レポートの取材で訪れた際も時折吹雪という天候でしたが、北海道工場のスタッフは寒い中笑顔でわれわれを出迎えてくれました。

50年前の会社設立時、この極寒の地に工場を建てることなど誰が想像できたでしょうか。そして、これから50年先のエフピコの姿を想像するとき、私たちはそこに無限の可能性を感じずにいられません。



北海道工場スタッフ

「CSR Report 2012」を最後までご覧いただきまして誠にありがとうございました。今後も皆さまのご意見を参考に継続的な改善を図っていきたいと思います。つきましては、当レポートに添えてありますアンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

2012年6月

環境対策室 ジェネラルマネージャー

松尾和則



CSR Report 2012

発行日：2012年6月

●制作部門・問い合わせ先

株式会社エフピコ 環境対策室
〒163-6036

東京都新宿区西新宿六丁目8番1号
新宿オークタワー（総合受付36階）

TEL 03-5325-7800

FAX 03-5325-7755

E-mail : EcoTray-FP@fpco-net.co.jp

ホームページ : <http://www.fpco.jp>

CSR Report 2012

To be a company that links
people with people, people with nature,
and companies with society.



株式会社エフピコ

- 本 社 〒721-8607 広島県福山市曙町1丁目12番15号 TEL(084)953-1145
- 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F TEL(03)5320-0717
- 大阪支店 〒560-0083 大阪府豊中市新千里西町1-1-8 第一火災千里中央ビル6F TEL(06)6835-5370
- 営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

ホームページ <http://www.fpc.jp/>

eメール EcoTray-FP@fpc-net.co.jp

